

令和元年度 地域活動費(館長権限予算) 実績報告書

事業名 富洲原の魅力再発見 (Volume2)

地区名 富洲原

1. 望まれる地域の姿

「ひと」のつながりが深く、「まち」の幸福度が高く、「まち」の魅力が「まち」へのひとの流れを生んでいる。

【かつての富洲原への回帰】

「人情敦厚にして性質単純恬淡而も熱情に富み他を愛すること己のごとく、為に他地方人士の来往するもの何れも其の住みやすきを嘆称す」(大正12年の富洲原町案内の記述から)

2. 地域の現状

- ・人口が逡減、特に若年人口の減少が著しく、高齢化に拍車がかかっている。
- ・都市のスポンジ化が進んでおり、空き家が増加。
- ・地場産業の後継者不足による後退。
- ・保幼小中と同じ顔触れで過ごす人が大半で、比較的外部からの刺激が少ない。

3. 課題

- (1) 地域の高齢化、人口流出により地域のつながる力が弱まっている。
- (2) 地域の個性がかつての合併、都市化により埋没。
- (3) まちづくりの担い手(特に若者の)不足。
- (4) まちづくり構想が未策定⇒まちづくりの方向性について、明文化されたものがない。

4. 実施内容

(1) 「まち」の個性や魅力を再発見し、共有する

① 地域の歴史文化遺産を再発見

- ・地域の祭りを映像情報として保存し、歴史文化遺産の継承につなげる【新規事業】
松原の「聖武天皇社石取祭り」、富田一色の「大念仏行事」、天カ須賀の「住吉神社石取祭礼」は、富洲原地区の3大祭りとして長きにわたり地域住民に親しまれてきたが、いずれも後継者不足が大きな課題。伝統文化として後世に継承できるような取り組みが求められる。
そこで、地域の三つの祭りについて、各々の歴史をはじめ語り継がれてきたしきたりや作法等の内容も含め、イベント全体を映像情報「富洲原 祭」に収録し、データをDVDに保存の上、地域へ配付し、伝統文化の継承に役立てるよう企画したが、台風により天カ須賀の「住吉神社石取祭礼」は祭りのほとんどが中止、富田一色の「大念仏行事」はメインの催しが中止となったため、松原の「聖武天皇社石取祭り」と富田一色の「大念仏行事」の開催部分のみでDVDを完成させ、その映像を地区ホームページ及びフェイスブックに掲載した。
- ・旧町名が地域から忘れ去られぬよう、「自治会名(旧町名)表示看板」を作製し、歴史文化遺産の継承に役立てる【新規事業】
富洲原地区では、新たに住宅開発された所や集合住宅などを除き、ほとんどの自治会がその名称に旧町名を用いているが、若年層や新たに転入してきた住民には馴染みが薄く、風化していくことが懸念され、また、そのことを残念に思う住民からの声も多く寄せられており、今後、無形の歴史遺産として後世に継承できるような取り組みが求められてきた。
併せて、本年4月から施行される「四日市市自治会加入の促進と自治会活動推進のための条例」に地区として寄与できる仕掛けも必要と思われた。
そこで、自治会名(旧町名)の表示板を作製し、各単位自治会長の協力の下で取り付けを行った。

(2) 「まち」「ひと」のつながる力をつける

① 「富洲原地区安全安心マップ」の作製【新規事業】

- ・富洲原地区まちづくり推進協議会の下部組織として設置された安全安心部会や自主防災隊の活動をはじめ、地域福祉や地域の見守り、防犯活動、保幼小中の安全安心に係る取り組みに役立てるため、地区全体(富洲原小学校に通う児童がいる隣接するエリアを含む)の詳細な地図を2部作製し、1部をセンターに、もう1部を北警察署跡地に現在建設予定の安全安心拠点施設に設置する。

5. 経費

金額単位:円			
事業項目(種目)	支出科目	支出金額	内訳
・地域の祭りを映像情報として保存し、歴史文化遺産の継承につなげる ・自治会名表示板を作製し、歴史文化遺産の継承につなげる	委託料 需用費	611,501 29,598	DVD 制作及び表示板作製
・安全安心部会や自主防災隊の活動をはじめ、地域福祉や地域の見守り、防犯活動等に役立てる	委託料	308,000	マップ作製
合 計		949,099	

6. 目標及び実績

指標	目標	実績
富洲原の祭DVD制作に係る地元等との打ち合わせ回数	6回	6回
自治会名表示看板設置箇所	106箇所	130箇所
安全安心マップ作製に係る意見聴取団体数	8団体	8団体

7. 成果

地区の祭りの継承と旧町名の風化を防ぐための一助となるよう取り組んだが、多くの住民の協力を得て完成でき、視覚的情報としても長く残り、地区の魅力の再発見に寄与するものとして住民に受け入れられている。

8. 今後の展開

今後も、地域からのニーズと、まちづくりや地域起こしに寄与できる事業とをうまくマッチングできるよう努める。



令和元年度 地域活動費(館長権限予算) 実績報告書

事業名

にぎわいのある文化の薫るまち富田
をめざして

地区名

富田

1. 望まれる地域の姿

花と緑のあふれる公園・憩いの広場・十四川の桜並木・運動広場等が充実している。

二世帯住宅の可能な環境整備がすすめられ、活気があって、住みやすいまちとなり、徐々に若者が増える活力が満ちている。

高齢者への対策が充実し、まっりの振興を核にした、にぎわいづくりを通じて潤いと活力が満ちている。

2. 地域の現状

- ① 桜の時期には、多くの方が訪れ、地区では『十四川桜まつり実行委員会』を立ち上げお迎えすることで、大変賑わっているが、管理については『十四川と環境を守る会』により、簡易な剪定や老木の伐採が行われている。
- ② 富田には多くの文化行事や史跡があるが、消失しているものもある。また継続しているものであっても、他地区に情報発信されておらず、無名に等しい。しかし現時点では各行事や史跡について、高齢ではあるものの深い知識をもった方がお見えになる。
- ③ 『富田地区まちづくり構想』が平成 20 年 4 月に作成され、10 年以上経過している。

3. 課題

- ① 『十四川と環境を守る会』が保全に努めているが、計画性がなく場当たり的であり、また十四川の桜は老木が多く、適正な管理を行わないと将来にわたって桜並木を保全できない。
- ② 富田の伝統文化や史跡があるが、地区内の住民であっても、文化の由来や存在を知らず、富田の魅力を理解していない。この結果、他地区へ発信がなされず富田の魅力が発揮されていない。
- ③ 『富田地区まちづくり構想』が構築されて 10 年以上経過しており、構想と時代のギャップが生じてきており、改めて見直す必要が生じてきている。

4. 実施内容

- ① みどり豊かな住みよい環境整備（十四川の桜並木保存） 【2 年目】
 - ・ 昨年度、十四川堤防の桜を、将来にわたり保全していくための管理計画を策定した。
 - ・ これに基づき、樹木の維持のため伐採・剪定を適切に実施する。
- ② 伝統文化を活かしたまちづくり（富田塾）【3 年目】
 - ・ 富田のまちあるきを行い、地元講師から富田地区の伝統文化・歴史・史跡の由来や謂れを学ぶ機会を設ける。
- ③ 豊かなコミュニケーションのもと、住民参加で進めるまちづくり（中学生による意見発表会）【3 年目】
 - ・ 意見発表者は中学生 6 人程度とし、進行を中学校教員が行い、自由な意見を引き出す。
 - ・ 意見発表の後、発表者とまちづくり協議会会長、連合自治会会長、社会福祉協議会会長等が自由討議を行う。
 - ・ 意見発表会資料を冊子に取りまとめ、中学生（PTA）及び教員、自治会等の団体へ配布する。

5. 経費

金額単位:円			
事業項目(種目)	支出科目	支出金額	内訳
1. みどり豊かな住みよい環境整備	その他委託料	466,000	樹木管理業務委託
	その他備品	83,600	チェーンソー
	消耗品費	53,240	鋸、剪定鋏等
2. 伝統文化を活かしたまちづくり	その他委託料	107,000	『富田塾』開催業務委託
	その他備品費	40,716	ハンズフリー拡声器
3. 豊かなコミュニケーションのもと、住民参加で進めるまちづくり	その他委託料	219,000	『中学生が語る富田の未来』公開討論会開催業務委託
合 計		969,556	

6. 目標及び実績

指標	目標	実績(見込)
①桜維持管理対象本数	428 本	428 本
②参加人数	100 人	100 人
③意見発表者	6 人	6 人

7. 成果

- ① 桜並木の管理計画に基づき、適正かつ効率的維持管理を行うことができた。この結果、十四川の桜並木が、将来にわたって保全されることが期待できる。
- ② 富田地区の魅力を掘り起しすることができた。この結果富田地区の魅力を認識することができ、地区への愛着が、より一層増した。
- ③ 討論会に先立ち、中学生に対し『富田地区まちづくり構想』と都市計画マスタープラン（地域・地区別構想）の説明を行い、改訂に際しては、今回の発表意見も参考とすることを説明した。このことで、中学生からまちの在り方に関する意見も出され、両構想の改定に向け、貴重な意見を収集できた。

8. 今後の展開

- ① 今年度より計画に基づき維持管理が実施されたことから、引き続き維持管理が行われるように支援するとともに、地域全体で管理できる体制づくりを構築していく。
- ② 富田の魅力を地区外の方に知っていただくため、積極的に情報発信するための仕掛けづくりを構築していく。
- ③ 策定してから10年が経過した『富田地区まちづくり構想』について、地区と都市計画課の協同により改訂を行う。その際には、都市計画マスタープラン（地域・地区別構想）の改訂も見据えて改定に取り組んでいく。

1. みどり豊かな住みよい環境整備

1) その他委託料

チェーンソーによる伐採状況



2) その他備品



3) 消耗品



2. 伝統文化を活かしたまちづくり

1) その他委託料

第三回 座学



第四回 実地調査



2) その他備品費



3.豊かなコミュニケーションのもと、住民参加で進めるまちづくり

1) その他委託料 討論会状況



令和元年度 地域活動費(館長権限予算) 実績報告書

事業名 来訪者おもてなし及び地域交流事業

地区名 羽津

1. 望まれる地域の姿

地域の人々が史跡を広く認識しているなど地域への愛着をもち、地域内での住民交流が活発であり、世代を問わず人材が豊富である。また、安心して子育てすることができる条件がそろったまち

2. 地域の現状

- ・羽津地区は他地区から転入してきた住民が多く地域住民の交流も少ない。
- ・地域のまちづくり活動は活発であるが、次世代の後継者を育成する必要がある。

3. 課題

地区内では転入者のエリアと旧の在所のエリアが分かれており、世代間や地域間での人のつながりが希薄な面がある。また、さまざまな事業でイベントを開催しているがスタッフは限られた人に固定され後継者の育成が必要となってきた。よって、地域に愛着を持ち、ひとびとがふれあう機会を提供し、交流を図ることにより人材発掘のきっかけとする必要がある。

4. 実施内容

① ふれあい広場整備支援講座【新規】

地区内の主要な史跡でもある糠塚山において「ふれあい広場」を整備し、地域住民の手で管理・拡充させていくことができるように、地域住民から参加者を募り、チェーンソー使用作業講習会を開催した。

② 史跡説明看板の設置【2年目】

昨年度に引き続き、地区内の史跡に関する説明の看板を設置することにより「来訪者へのおもてなし」を充実するとともに地域への愛着をもってもらうために、昨年、各種団体構成員による選定会議を開催して決定した候補地をベースとして継続性も考慮して選定した3カ所に看板を設置する（設置場所選定済で1カ所は設置済）

③ 子育て講座の開催【2年目】

昨年に引き続き、妊婦や子育て中の母子を対象に、マタニティヨガや親子バランスボールなどの講座を開催し、楽しく子育てできる環境づくりを支援した。

なお、昨年、好評であった講座を中心に開催回数を増加させるなどして参加者の増加を図るなど内容を充実した

5. 経費

金額単位:円

事業項目(種目)	支出科目	支出金額	内訳
ふれあい広場整備支援講座	委託料	404,630	受講料、消耗品
史跡説明看板の設置	委託料	452,650	看板製作および設置
子育て講座の開催	委託料	245,000	講師料、使用料等
合 計		1,102,280	

6. 目標及び実績

指標	目標	実績
ふれあい広場整備講習会参加者	30名	20名
史跡説明看板設置数	4ヶ所	3カ所
子育て講座参加者数	のべ300名	のべ180名

7. 成果

講習会を開催することにより「ふれあい広場」整備・管理の足掛かりができた。

また、新規参加者も多く見られたので、まちづくりの人材発掘に寄与できた。

史跡説明看板の設置により地域の名所旧跡の再認識がなされ、地域への愛着意識の向上につながった。

子育て講座を実施し、楽しく子育てできる環境づくりを支援できた。

8. 今後の展開

講習会への新規参加者を「ふれあい広場」整備・管理だけでなく、まちづくり全体に関わってもらえるよう働きかけていく。

史跡説明看板の設置を名所、旧跡へ注目するきっかけとすることにより、地域への愛着を醸成につなげていく。

「子育てするなら四日市」をリードする地区となるとともに赤ちゃんから高齢者までが一体感をもって、楽しく、安心して暮らせるまちとなるよう事業を展開していく。

親子バランスボール教室の様子



マタニティヨガ教室の様子



伐木等特別教育（学科）の様子



伐木等特別教育（実技）の様子



令和元年度 地域活動費(館長権限予算) 実績報告書

事業名 地域ふれあい推進事業

地区名 常磐

1. 望まれる地域の姿

地域の連帯意識・一体感が醸成し、心のふれあう魅力ある常磐地区

2. 地域の現状

常磐地区は都市化が進み、マンションや賃貸住宅の増加に伴い、流動人口も多く、地域の一体感が醸成されにくくなりつつある。

地区全体では自然や名所・旧跡や特産品などの観光等で他地域から訪れる方は多くなく、住宅地として市の人口の約9%をしめ、人口密度も本市の平均の4倍近くになっている。年齢別では市平均より64歳以下の構成比が高い。

3. 課題

都市化の進行等により、地域が一丸となって取り組むべき事業の推進などが困難になる恐れがある。地域の一体感を高めることで、地域力を強化することが急務となっている。

4. 実施内容

1. マスコットキャラクターを用いた地域の活性化事業について（2年目）

まちづくり協議会において常磐地区全体として取り組んでいくことが確認され、関係団体によるプロジェクトチーム（参加団体 まちづくり協議会・連合自治会・社協・小中学校 PTA・民生委員児童委員協議会・地区防災協議会・人権同和教育推進協議会・体育振興連絡協議会・地区センター）による検討を重ね、昨年度マスコットキャラクター「ときはちゃん」が完成した。今年度はさらなる啓発、活用により地域活性化を図った。

(1) マスコットキャラクターのイベント参加

- ・今年度のマスコットキャラクターによる地域の活性化方策について、推進プロジェクトチームによる活動計画や啓発物品の検討を行った。（7月17日開催）（2月末現在）
- ・常磐地区内のイベントに積極的に参加をした
赤堀ふれあいまつり（10月）、常磐まつり（11月）、社協イベント（8月）、単位自治会行事（4月）、人権イベント（11月）などに参加
- ・マスコットキャラクターPRグッズ（シールやクリアファイル）を作成し、イベント等で配布し周知・啓発を行った

(2) マスコットキャラクターの等身大パネルの設置について

- ・イベントにおいてマスコットキャラクター参加時の休憩中等に使用するマスコットキャラクターの等身大パネルを設置した。イベントがない時も地区市民センターに設置し、地域住民への啓発を行った。

(3) マスコットキャラクターの活用について

- ・地区だよりへのイラスト掲載
- ・関係団体発行物等へのイラスト掲載
- ・関係団体による啓発物品へのマスコットキャラクターの活用

2. 関係団体との連携による人材育成（2年目）

(1) 四日市医師会との連携

- ・医師会より常磐地区内に診療所を開設する医師の派遣をしてもらい、災害時における医療救護所設置など医師会の活動予定、避難所内に住民が開設する救護所活動訓練の必要性和その2か所の連携の重要性、その活動時の心構え等の講義のほか、実際の救護所活動の指導を通じ、避難所から医療救護所へ引き継ぐ様式の作成など、地区の救護所活動に携わる住民の人材育成等を行った。

(2) 四日市市保健所との連携

①避難所での健康管理

- ・大規模災害時の避難所において、当地区では民生委員が避難者の健康確認等を行うこととされているが、長期化した場合、保健所保健師が健康観察に避難所を回る。その際、双方の取組

み方に差異があると活動に支障が出ること及び保健所も実際の避難所での活動実績が少ないことから、常磐地区の避難所設営訓練会場において、協働して活動訓練にあたり、双方の人材育成、能力向上に努めた。

②ペットの同行避難

- ・近年、全国的に災害時にペットを連れてくる避難者が多い。当地区でもペットの同行避難訓練を行うことで災害時の対応力を高めるほか、保健所でも実際の同行避難訓練の実績がなかったため、地区の避難所設営訓練に合わせ、双方が協力して訓練を実施し、飼い主への啓発や日ごろからの備えなどの周知・啓発を行った

3. まちづくり構想に沿った、住みたいまち・住み続けたいまち常磐推進事業（新規）

10月に常磐地区まちづくり構想を市長に提出した。今後市が「都市計画マスタープラン地域地区別構想」が策定され、事業を進めることになるが、地区で取り組める事業を先行して実施した。

(1) まちづくり構想の周知について

まちづくり構想概要版を地区関係団体で配布・説明を行うとともに、地区内回覧や常磐まつりなどイベント時に配布を行い構想の周知を行った。

(2) ゾーン30推進事業について

ゾーン30の推進を先行して実施し、今年度認定された石塚町、ときわ五丁目、城西町、赤堀二丁目について、看板やチラシによる周知・啓発を行った。

5. 経費

金額単位:円			
事業項目(種目)	支出科目	支出金額	内訳
1. マスコットキャラクターを用いた地域の活性化事業	需用費	203,740	啓発物品 シール 97,900 ファイル 86,400 等身大パネル 19,440
	委託料	55,000	着ぐるみパーツ手袋・ズボン
2. 関係団体との連携による人材育成	委託料	41,666	講師料 30,000 チラシ印刷等 11,006 振込料 660
3. まちづくり構想に沿った、住みたいまち・住み続けたいまち常磐推進事業	委託料	173,976	ポスター印刷 5,500 チラシ印刷 36,476 看板作成 132,000
合 計		474,382	

6. 目標及び実績

指標	目標	実績
マスコットキャラクターのイベントへの述べ参加回数	10回	6回 (他中止のイベント4回)
避難所設営訓練参加人数	300人	320人
まちづくり構想推進組織の立上げ	年度内活動開始	ゾーン30開始

7. 成果

- 常磐地区マスコットキャラクターによる地域の活性化事業
 - ・地域内団体の交流推進
 - ・地域イベントの活性化
- 関係機関との連携による人材育成について
 - ・関係団体との連携強化による、連携の円滑化、及び連携の重要性の認識

8. 今後の展開

- 常磐地区マスコットキャラクターによる地域の活性化事業
 - ・各団体の発行物への「ときはちゃん」掲載増や「ときはちゃん」顔出し看板設置などでマスコットキャラクターを活用したPRを推し進め、地域の活性化を図る。
- 関係機関との連携による人材育成について

3. まちづくり構想に沿った、住みたいまち・住み続けたいまち常磐推進事業

- ・まちづくり構想の推進による地区内の安全、環境、福祉及び防災力の向上

・当地区では防災が大きな課題の一つであり、今回の連携は継続したい。また、他分野についても関係機関との連携により、地区における人材育成を行っていききたい。

3. まちづくり構想に沿った、住みたいまち・住み続けたいまち常磐推進事業の推進について

- ・来年度から本格的に、先行事業を実施していく。特に子どもたちの通学路の安全確保のためのゾーン30についてエリアを広げる取り組みを進めるとともに活動についても周知を図る

1. 常磐地区マスコットキャラクターによる地域の活性化事業



常磐まつり（11月3日）



夏のふれあいカフェ（8月27日）



赤堀ふれあいまつり（10月8日）



等身大パネルによる啓発

2. 関係団体との連携による人材育成

(1) 医師会との連携



医師会活動との連携の重要性等講義



救護活動指導



救護所での負傷者受付実習



避難者への講義

(2) 保健所との連携による人材育成



避難者を地域の方と一緒に巡回



健康状態の確認



健康体操の実習



感染症対策の講演

(2) ペットの同行避難訓練



左上：同行避難したペット
 右上：避難時の準備物説明
 右下：ペットの避難について
 避難者への講義



3. まちづくり構想に沿った住みたいまち・住み続けたいまち常磐推進事業
ゾーン 30 推進事業



ゾーン 30 区域でのポスター掲示



ゾーン 30 区域での看板掲示

令和元年度 地域活動費(館長権限予算) 実績報告書

事業名	歴史文化を大切にし、安全で住みよいまちづくりに向かっての場の提供、人づくり事業	地区名	日 永
-----	---	-----	-----

1. 望まれる地域の姿	2. 地域の現状
①東海道を中心とする地元の歴史について地域の誇りとできる場と住民が住む。 ②防災について関心を持ち、自助・共助がいざというとき発揮できる住民が居る。 ③福祉についての地域ニーズに対応できる場と住民が居る。	①郷土資料館を中心に歴史紹介できる体制を引き続き維持できる体制を整える必要がある。 ②避難所の運営マニュアルはあるが、普段の備えから、災害発生時の対応を示す総合的なマニュアルが整備されていない。 ③サロン運営などは活発に実施されているが、地域ニーズを発見し、活動に活かすことができる基礎知識研修が改めて必要になっている。

3. 課 題

- ①郷土資料館の所有者から退去を要請されており、移転先を交渉し確定することが必要。また、これまで作成してきたMAP等の改訂作業も求められる。
- ②総合的な防災マニュアルを各家庭に配備し、日頃の備えや地元訓練に活かして防災能力の向上を図ることが最終目標であるが、一気にレベルを引き上げることは難しいことからわかりやすい日永地区の特性を盛り込んだ、洪水、地震、津波各々に対応するMAPを作成し、訓練に活かすことから始める。
- ③サロン等福祉事業の継続の中でふと忘れがちな地域包括ケアそのものを改めて学び直すとともに、他地区の取り組みなどの情報を紹介し、今後の取り組みに活かすことが必要。

4. 実施内容

- ①郷土資料館の移転先交渉がまとまらなかったため、移転作業そのものが着手できなかった。今後別の物件を交渉継続の予定であり、本事業は地域活動費にて対応を検討してまいりたい。PRのために作成してきたMAP等も移転先確定ののち修正についても対応してまいりたい。
- ②今年度は自主防組織において防災マニュアルの原稿を練り上げる中で、洪水を想定したMAPを作成し各戸配付。また残部は今後の自主防災研修等に活用していく。また、地区全体での防災訓練に非常持出品の見直しの機会を10月21日の自主防災組織会議及び11月10日の地区防災訓練において実施した。
- ③地域包括ケアの仕組みの基礎知識から、先進的な地域独自の取り組みを学ぶ勉強会を3月16日に開催した。

5. 経費

金額単位:円			
事業項目(種目)	支出科目	支出金額	内訳
防災力向上事業	消耗品	126,806	展示サンプル、説明資料
〃	講師報奨金	13,000	6A、6B各1回
〃	印刷製本費	60,480	10,000 枚(各戸配付他)
地域福祉力向上事業	消耗品	28,287	資料印刷用紙及びインク
合 計		228, 573	

6. 目標及び実績

年間資料館来客数 (H31.1.1～R01.12.31)	3, 012名	非常持出品訓練参加者数	10名(10/21) 227名(11/10)
福祉研修会参加者数	25名		

7. 成果

②非常持ち出し品の訓練は、講義内容が重さの目安などを含め詳細であったことから、参加者にも十分今後の各家庭での備えに資する効果があったと思われる。

③今年度民生委員の一斉改選があり、約半数が新しく民生委員に就任していることから、福祉制度の研修の一環としての効果も見込まれる。また他地区の先進的な取り組みもいきいきサロン運営者に参考になると思われる。

8. 今後の展開

①資料館の存在は日永地区において観光資源として重要なものと考えられる。したがって地域活動費にて移転作業等の事業は状況を見ながら検討を続ける必要があると思われる。

②防災に関して、昨年地域活動費にて取り組んだ非常時のダンボールトイレが実習分のみ材料を準備しただけであり、参考にと各自主防災隊でサンプルを提供しており、これをさらに定着するため、制作マニュアルをわかりやすいイラストなどで作成することに取り組みたい。



10月12日 防災研修会（於：日永C）



11月10日 地区防災訓練（於：泊山小）



3月16日 地域包括ケア勉強会（左：高齢福祉課 宮崎係長、右：市社協 六代氏）

令和元年度 地域活動費(館長権限予算) 実績報告書

事業名 四郷地区ふるさと・ふれあい事業

地区名 四郷地区

1. 望まれる地域の姿

地域を知り、人とふれあうことで、郷土に関心、愛着を持つ人が増え、住民活動が安定、活発に行われて、住民誰もが安全安心に暮らせることができ、生涯住み続けたいと思う地域になる。

2. 地域の現状

四郷：明治時代には近代産業が発展した地域で風致地区の自然を含め様々な地域資源が存在する。

笹川：大規模団地であることや、URや県営の大規模集合住宅では外国人居住者も多いことから、近所づきあいが少なく、人と人のつながりが希薄である。

高花平小林町：高花平は県下初の大型住宅団地で老朽化、少子高齢化が著しく、特に市営住宅は空き家が増える一方で、地域コミュニティとして存続が危ぶまれている。

3. 課題

四郷：地域の誇りとなる特色ある地域資源が多数存在し、古くからの住民は地縁によるつながりが強い。しかし、新転入または若い世代の住民には認知度が低く地域への思いは希薄になっている。

笹川：県下最大級の団地であり、その大きさから笹川全体とした一体感や地域への愛着心が高くなく、顔の見える関係が作りにくい。

高花平小林町：まちの活性化を目指す連合自治会を始めとする地域団体の取り組みをさらに進める必要がある。

4. 実施内容

四郷：四郷ふるさと事業

みんなで学ぼう四郷の近代化と近代産業の祖【新規】

四郷の近代化と近代産業の祖である五世伊藤小左衛門生誕 200 年を記念し、その功績や足跡並びに四郷の近代化の歴史を地域住民が学習するとともに地区外へも周知するための事業を実施した。

- ・記念講演会「五世伊藤小左衛門」を開催。

令和 2 年 1 月 25 日（土） 参加人数：44 人

- ・「五世伊藤小左衛門」の足跡を歩く会を開催。

令和元年 12 月 7 日（土） 参加人数：32 人

- ・パンフレットの作成

五世伊藤小左衛門に関するパンフレットを作成し、上記イベントで配布した。また、四郷郷土資料館や四郷地区市民センター等に配架し周知を図った。3,000 部印刷

- ・小冊子（写真集）の作成（作成中）

上記の事業を実施する上で収集された資料や研究した内容などを後世に残すための小冊子（写真集）を作成し保存するとともに、関係機関に配布する。200 部作成予定。

笹川：笹川ふれあい事業

- 1 子ども交流事業（ストラックアウト大会）【継続】（3 年目）

東西 2 つの小学校区に分かれていた笹川の子供たちの交流を深めるため、ストラックアウト大会を開催した。大会後は交流会も実施した。

令和元年 5 月 19 日（日） 参加人数：200 人

- 2 子ども交流事業（ハンドボールで交流）【新規】

日本ハンドボールリーグに参戦している「三重バイオレットアイリス」の選手によるハンドボール体験会を、小学生を対象に開催した。ハンドボール未経験者でも楽しめるメニューとし、日本レベルの選手や笹川出身の選手と接しながらスポーツに親しむことで地域への愛着を育むとともに子どもたちの交流を深めた。

令和元年 8 月 7 日（水） 参加人数：42 人（他参観者 76 人）

- 3 清掃でふれあい【新規】

笹川には笹川地区協議会が主催するふれあい祭りの後の会場清掃をこれまでは地区協議会役員等が行っていたが、清掃の参加をふれあいの機会として捉え、高齢者から子ども、外国人市民まで広く住民に呼びかけ実施して交流を促進した。

令和元年8月12日（月）ふれあい夏祭り翌日
令和2年1月12日（日）ふれあいどんと祭り後
のべ参加人数128人（うち子ども17人、外国人13人）

花平小林町：高花平小林町まちづくり推進事業

防災でふれあい【新規】

今年度初めて連合自治会と小学校が共同で防災訓練を実施するのをふれあいの機会と捉え、子どもたちと大人と一緒に防災を学びあう下記事業を実施した。

- ・防災クイズ大会の開催

地区文化祭で防災関連クイズ大会を実施し、防災について大人も子どもも関心を深めてもらうとともに、後日実施する防災訓練の周知を行った。

令和元年10月27日（日）参加人数：小学生208人、一般60人

- ・かまどベンチの造成

防災訓練会場となる高花平小学校（指定避難所）にかまどベンチを造成した。

令和元年11月～12月の土、日曜日 延べ従事者数：55人

- ・防災訓練に新しい訓練メニューの実施

被災時の行動を実際に体験できる訓練を新しく実施し、大人と子供が協力して体験した。（ダンボールベッド組立体験、かまどベンチを使用しての非常食炊き出し体験、非常食試食）

令和2年1月18日（土） 参加人数：小学生212人、一般230人

5. 経費

金額単位：円

事業項目（種目）	支出科目	支出金額	内訳
「みんなで学ぼう四郷の近代化と近代産業の祖」事業	委託料	400,000 円 （予定）	四郷ふるさと実行委員会へ委託
こども交流事業（ストラックアウト大会）	委託料	60,000 円	笹川地区協議会へ委託
こども交流事業（ハンドボールで交流）	委託料	100,000 円	笹川地区協議会へ委託
「清掃でふれあい」事業	委託料 備品購入費	173,000 円 49,464 円	笹川地区協議会へ委託 リヤカー1台
「防災でふれあい」事業	委託料	356,000 円	高花平小林町連合自治会へ委託
合 計		1,138,464 円 （予定）	

6. 目標及び実績

指標	目標	実績（見込）
四郷地域の延べ従事者数	70人	67人
笹川地域の延べ従事者数	50人	62人
高花平小林町地域の延べ従事者数	70人	112人

7. 成果

四郷：従事者・参加者ともに、四日市の近代化は四郷が大きく貢献したことを改めて知り、郷土への愛着がさらに深くなった。

笹川：外国人市民も含め、大人も子どもも住民同士がふれあう機会となり、顔の見える関係づくりが進んだ。

高花平小林町：大人も子どもも防災知識が深まるとともに、共同作業などで交流が進み、防災に強いまちづくりを推進した。

8. 今後の展開

四郷：四郷の近代化についてはさらに研究の余地があり、今後も調査研究を進め、地域に周知してまちの活性化を図っていく。

笹川：外国人を含め笹川の住民が顔の見える関係づくりをする機会を増やし、笹川の一体感を醸成していく。

高花平小林町：今後も防災訓練を含め住民同士がふれあう機会を増やすことで関係づくりに努め、まちづくりを推進していく。

(実施した事業の写真および写真の説明を添付)

四郷

講演会①



講演会②



歩く会①



歩く会②



パンフレット



小冊子（写真集）



笹川

ストラックアウト大会



交流会



ハンドボールで交流①



ハンドボールで交流②



清掃でふれあい①（子どもたちの参加）



清掃でふれあい②（外国人市民の参加）



高花平小林町

防災クイズ



かまどベンチの造成



かまどベンチの完成



炊き出し訓練



ダンボールベッド組立訓練①



ダンボールベッド組立訓練②



令和元年度 地域活動費(館長権限予算) 実績報告書

事業名 地域資産の活用と減災のまちづくり

地区名 内部

1. 望まれる地域の姿

歴史や自然、暮らしなどの資産を活用した事業を地区が一丸となって実施し、観光資源としての活用も図ることで、地区が活性化する。また、地区住民が参画し作成したものを地区内の行事等で普及・定着させ、他地区に発信することで魅力あるまちとする。

2. 地域の現状

市内の内陸部に位置し、将来的に人口は増加傾向にある。高齢化率は市内では低い。
従来からの住宅地や新たな住宅開発が多数行われており、新旧住民が混在しコミュニティの希薄化が進んでいる。

3. 課題

内部地区まちづくり構想における本地区の将来像「次世代へ 歴史・自然・暮らしをつなぐまち 内部」の実現が望まれている。

四日市あすなろ鉄道を活用した内部地区の魅力の発信が望まれている。

また、地域防災力の強化のため、女性の参画が望まれている。

4. 実施内容

①女性防災組織設立・子どもの防災意識向上事業【新規】

内部地区自主防災協議会の協力の元、女性目線での防災力の強化を目指した講演会や女性を対象とした講習を実施して賛同者を募り、女性防災組織を設立した。

また、小学生や幼稚園、保育園児を対象に、講習、講座、体験を実施し、防災意識を向上させた。

親子防災教室講座、防災カードゲーム・家具固定講座、防災昼食会講座、(子ども防災学習講座：中止)を実施した。

②住民の憩いの場整備事業【新規】

内部東小学校の敷地にある「とんぼ池」を、ホテルの里を育てる会やPTA、内部っ子はげまし隊、自治会等の協力のもとに復活させ、地区住民の憩いの場としての機能を強化し、内部に住むことへの誇りを持つ機会とした。

③福祉体験事業【新規】

小学生を対象に、うつべ☆スターや市社会福祉協議会の協力のもと、東京2020パラリンピックや2021三重とこわか大会への出場を目指してがんばっている障がい者との交流等による福祉教育を実施し、障がい者スポーツに触れることにより、とこわか大会への関心を深めた。

小学生のボランティア精神の向上を図ることができ、誰もが住みやすい地域づくりのきっかけや、人材の育成となった。

④地域活動活性化事業【新規】

昨年度50回目を迎えた文化祭をはじめ、様々な事業を展開している地区社協に対し、役員同士の連帯感を高め、自らの役割のやりがいと責任感を醸成し、今後益々地域行事を活性化する目的で地区社協の名前を印刷した法被(ユニフォーム)を作成した。

四日市市を強調するため、法被前後に「こにゅうどうくん」を10体配置した。

市長が地区の文化祭にあいさつに來られた際に着用していただき、好評を得た。また、郷土が誇る芸能大会で「うつべ音頭」披露した際に、出演した婦人会のメンバーが着用し、花を添えた。

5. 経費

金額単位:円			
事業項目(種目)	支出科目	支出金額	内訳
①女性防災組織設立・子どもの防災意識向上事業	委託料	236,000	講習会材料費、研修費、講師謝礼など
	備品購入費	86,900	救助用ダミー人形
②住民の憩いの場整備事業	委託料	404,000	資機材、材料費、諸経費
③福祉体験事業	委託料	131,729	講師謝礼、資機材など
	備品購入費	107,360	ボッチャセット
④地域活動活性化事業	消耗品費	131,340	法被作成
合 計		1,097,329	

6. 目標及び実績

指標	目標	実績(見込)
女性防災組織構成人数	10	15

7. 成果

まちづくり協議会を構成する様々な団体と協働で事業を展開することで、多くの団体との交流が生まれ、地区の活性化が図られた。

また、女性や子どもを対象とすることで、地域で活躍する人材の育成にも寄与でき、「住み続けたいまち」としての魅力が生まれる機会となった。

8. 今後の展開

今後の人材育成として、女性や子どもを対象とした事業展開が望まれる。

また、豊かな自然環境を保存するため、再生、維持、活用するサイクルを形成する必要がある。

①女性防災組織設立・子どもの防災意識向上事業



親子防災教室1



親子防災教室2



家具固定



防災カードゲーム



防災昼食会1



防災昼食会2

②住民の憩いの場整備事業



2つ目の池も手作りで完成



山側のイノシシ防護柵設置



通路を車いすでも移動できるよう手作業で作成



門も付けて完成



児童も参加1



児童も参加2



児童も参加3



児童も参加4

③福祉体験事業



障害者(青木選手)の話を真剣に聞きました



たくさん質問をしました



青木選手は“ランプ”を使って投げます



先生と対決して青木選手が勝ったので宿題は無し！



審判を依頼したうつべ☆スターさんも真剣です



ボッチャも楽しく体験できました

④地域活動活性化事業



法被表



法被裏

令和元年度 地域活動費(館長権限予算) 実績報告書

事業名 地域のきずなづくりプロジェクト

地区名 塩浜

1. 望まれる地域の姿

地域住民がさまざまな活動を通して連携、絆を深め、「豊かでさわやかな町しおはま」に住んでいることを誇りに生き活きと暮らす。

2. 地域の現状

- ・人口が減少しているうえに、少子高齢化がますます進展している。
- ・地域住民によるまちづくり活動、イベント活動は活発に行われているものの、後継者不足である。

3. 課題

まちづくりに関わっている中心メンバーが高齢化してきており、後継者不足が課題となっている。今後もまちづくり活動を継続、発展させていくためには、新たな人材、多様な人材の確保、育成が必要である。特に子育てが一段落した世代、定年を迎えたばかりの元気な高齢者等の地域の居場所、いきがいつくりの場を提供し、まちづくりに参加、参画できる体制づくり、環境づくりが必要である。

4. 実施内容

(1) 地域の人材発掘・育成事業

① 地域活動担い手育成プロジェクト講座【新規】

四日市大学との地域社会づくり連携企画として、地域活動や身近な地域での支えあい活動を担っていただく人材を発掘・育成することを目的に5回シリーズで講座を開催した。

第1回 9月14日(土) キックオフ講演会(公開講座) 参加者数20人

「地域社会づくりについて」 講師：四日市大学学長 岩崎 恭典教授

第2回 11月2日(土) 参加者数16人

「塩浜地区の魅力や課題を考える」 講師：四日市大学 三田 泰雅准教授

第3回 12月7日(土) 参加者数20人

「ボランティア活動を考える」 講師：四日市大学副学長 松井 真理子教授

「買い物支援ボランティアについて」 講師：NPO法人ほっとねっと 伊藤順子代表

第4回 1月18日(土) 参加者数16人 買い物被支援者17人 計33人

「買い物支援ボランティア体験」 講師：NPO法人ほっとねっと 伊藤順子代表

実際にイオンタウン四日市泊店で買い物支援ボランティア体験

第5回 2月1日(土) 参加者数19人

「地域社会づくりのまとめ~地域活動デビュー応援~」

講師：四日市大学学長 岩崎 恭典教授

計5回 受講者数91人

② 子ども支援プロジェクト「地域の大人に学ぶ子ども教室」【新規】

夏休みの長期休校期間中に地域の大人による子ども教室を開催し、一芸や特技を持った地域の新たな人材を発掘するとともに地域の大人とのふれあいの場を設けた。

・「お茶席体験教室」 7月27日(土) 参加者数10人

・「囲碁体験教室」 8月 3日(土) 参加者数10人

・「お菓子作り教室」 8月10日(土) 参加者数20人

・「七宝焼き教室」 8月31日(土) 参加者数11人

計4回 51人

(2) 塩浜の自然体験事業

・塩浜キッズ農園【継続3年目】

平成29年度に館長権限予算事業で、塩浜小学校の協力を得て行程の一角の花壇を利用し、地域交流及び自然学習の一環としてキッズ農園を開墾した。今年度においても、塩浜小学校キッズ農園会の会員を中心に地域の農業経験者及びボランティアの耕作協力、栽培指導を仰ぎながら、小学校児童180人を対象としたジャガイモ、さつまいもの植え付け、収穫作業等の農業体験を行った。

(3) 地域の資源・活用・保全事業

① 動くタイムカプセル【継続3年目】

塩浜の歴史や文化及び季節折々のイベント等における企画会議から当日のイベントまでを次世代に残すため、地域のボランティアの協力によりビデオを撮影・編集し「動くタイムカプセル」として次世代に伝承する。当該事業は平成29年度「塩浜のビデオ制作」として始めたが、すべてを撮りきれていないため、継続して実施した。

② 多世代交流イベント「おとなとこどものアートまつり」【継続3年目】

11月10日の三浜文化会館全館開放イベント「こどもとおとなのアートまつり」において地域活動室を活用し、ふれあいサロン「ほっと」の開催、「塩浜地区の魅力を伝える写真コンテスト」入選作品の展示や移動児童館による創作活動、地域ボランティアによる綿菓子、ポップコーンの提供、「ふわふわこにゅうどう」等のイベントを通じてこども、子育て世代、高齢者の三世代の交流の場とした。(運営ボランティア数 延べ56人)

③ 塩浜地区の魅力を伝える写真コンテスト【新規】

塩浜地区の良さや地域の特色を発見・アピールすることを目的に、塩浜地区内の工場夜景、磯津海岸からの朝陽・夕陽、塩浜の自然、風景等塩浜地区内で撮影した写真を公募したところ92作品の応募があり、有識者及び地域の街づくり協議会から選任された審査員による審査を行い15点の入選作品を選考した。また、入選作品15点を塩浜地区文化祭(10月28日)に展示し、文化祭来場者による投票(263票)で最多得票(42票)を得た作品1点に特別賞を選考した。また、入選作品を三浜文化会館全館開放イベント(地域活動室)において展示し、地区外の方々に塩浜の魅力をアピールした。

(4) まちかど保健室【継続2年目】

高齢者の介護予防及び閉じこもり防止を目的に毎月第2金曜日にヘルスプラザ、第3水曜日に市民センターで、地域のボランティアによるいきいきサロン「ほっと」が開催され、年間延べ約4,000人が参加している。塩浜地区市民センターでの開催を活用し、社会福祉法人風薫会に委託し、保健師、ソーシャルワーカー、看護師による暮らしの困りごとや健康相談等病院では聞けないこと、不安なこと等気軽に相談できる「まちかど保健室」を設置した。

また、閉じこもりがちな高齢者等がいきいきサロンやまちかど保健室に気軽に来られるように、4回の歌声カフェ(「みんなで歌って元気」)を開催し延べ167人の参加があった。

まちかど保健室

7月19日(金)	10:00~12:00	14人(男性3人 女性11人)
9月20日(金)	10:00~12:00	8人(女性8人)
10月18日(金)	10:00~12:00	7人(女性7人)
11月15日(金)	10:00~12:00	8人(男性1人 女性7人)
12月20日(金)	10:00~12:00	12人(男性2人 女性10人)
1月17日(金)	10:00~12:00	3人(女性3人)
2月21日(金)	10:00~12:00	9人(男性1人 女性8人)
計 7回		61人(男性7人 女性54人)

歌声カフェ(「みんなで歌って元気」)講座

7月19日(金)	13:30~15:00	43人
10月18日(金)	13:30~15:00	45人
11月15日(金)	13:30~15:00	38人
2月21日(金)	13:30~15:00	41人
計4回		167人

5. 経費

金額単位:円

事業項目(種目)	支出科目	支出金額	内訳
地域の人材発掘・育成事業			
①地域活動担い手育成	報償費	156,000	地域活動担い手育成講座講師
	消耗品費	29,009	コピー用紙、バンダナ他
	自動車使用料	40,150	買い物支援バスツアー借上げ
②子ども教室	報償費	42,000	地域の大人に学ぶ子ども教室講師
	消耗品費	24,729	子ども教室教材、材料
塩浜の自然体験			
①キッズ農園	委託料	86,574	さつまいもの苗、種いも
地域の資源・保全・活用事業			
① 動くタイムカプセル	委託料	45,278	ビデオ撮影、映像編集
② 多世代交流イベント	委託料	208,232	綿菓子材料、資機材使用料
③ 写真コンテスト	委託料	177,323	入選作品賞品、送料
まちかど保健室	委託料	123,640	ソーシャルワーカー、看護師
	報償費	48,000	歌声カフェ講師報償費
合 計		980,935	

6. 目標及び実績

指標	目標	実績(見込)
地域活動担い手プロジェクト参加者	30人	20人
多世代交流イベントボランティアスタッフ	60人	56人

7. 成果

地域活動、まちづくり活動に参加、参画しなかった人や人付き合いがなかった人が、顔を突き合わせることで、地域、住民同士のきずなが深まるとともに新たな人材の発掘により地域活動、まちづくり活動が活性化する。

8. 今後の展開

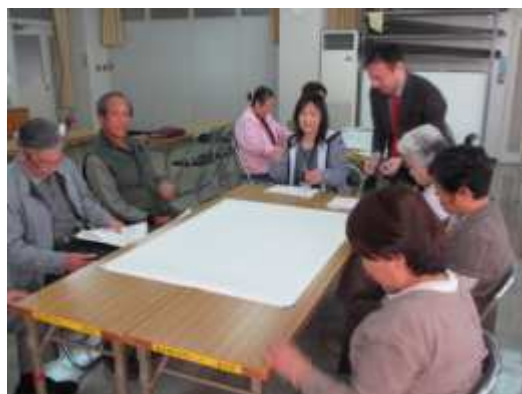
地域活動担い手育成講座の受講者及び新たに地域活動の担い手を発掘し、昨年12月に策定した「塩浜まちづくり構想」の実現に向けた実行委員会等を組織し取り組む。

(1) 地域の人材発掘・育成事業

①担い手育成講座 第1回キックオフ講演会



第2回講座



第3回講座



第4回講座



第5回講座



②地域の大人が教える子ども教室 お菓子づくり講座



お茶席体験講座



囲碁体験講座



七宝焼講座



(2) 塩浜の自然体験事業 ① 塩浜キッズ農園



じゃがいも収穫際



さつまいも収穫際



(3) 地域の資源・活用・保全事業

②世代交流イベント「おとなとこどものアートまつり」

ふれあいサロン「ほっと」



写真コンテスト入選作品展示



ふわふわ子入道



綿菓子・ポップコーン



移動児童館 創作コナー



③塩浜地区の魅力を伝える写真コンテスト
最優秀作品「河口でサーフィン」
撮影場所 鈴鹿川河口付近



優秀作品「夜の鼓動が聞こえる」
撮影場所 鈴鹿川小倉橋



優秀作品「お稲荷さま」
撮影場所 海山道神社



入選作品「静かな夜釣り」
撮影場所 磯津(鈴鹿川)



優秀作品「夜の操車場」
撮影場所 近鉄塩浜駅連絡通路



優秀作品「セントレアの夜明け」
撮影場所 磯津海岸



入選作品「朝日を浴びて」
撮影場所 磯津海岸



入選作品「黄昏のコンビナート」
撮影場所 磯津(鈴鹿川)



入選作品「入道雲とコンビナート」
撮影場所 小倉橋



入選作品「群飛ぶ海鳥」
撮影場所 磯津（鈴鹿川）



入選作品「目の前の向こうへ」
撮影場所 磯津海岸



入選作品「異様な道」
撮影場所 海山道



入選作品「茜色の刻」
撮影場所 磯津（鈴鹿川）



入選作品「花嫁よ永遠に」
撮影場所 海山道



入選作品「橋からの眺め」
撮影場所 塩浜跨線橋



(4) まちかど保健室事業

①まちかど保健室



②歌声カフェ「歌って元気」

第1回 7月19日



第2回 10月18日



第3回 11月15日



第4回 2月14日



令和元年度 地域活動費(館長権限予算) 実績報告書

事業名 自然・文化を大切に～つながろう小山田～事業

地区名 小山田

1. 望まれる地域の姿

地区内における各町の人・モノ・情報の交流がより活発となり、地域がより活性化されることで、本市が掲げる「元気都市四日市づくり」を地域から実現する。

2. 地域の現状

地区の面積が広いうえに丘陵地域で起伏が激しいこともあり、町間の人的交流が希薄な状況がある。

3. 課題

- ・事業の実施を通じ、地域におけるまちづくり人材の発掘と育成やネットワーク化を図る。
- ・自然や文化をはじめとした地域資源の発掘・発信により、地域の魅力を地元の人が再認識する。
- ・H30年3月に策定された小山田地区まちづくり構想の実現に向けた取り組みの強化を図る

4. 実施内容

1. まちづくり構想の具体化に向けた支援

(1) ①【2年目】構想推進団体の活動支援

H30年度に構想の実現を目的として設立した「小山田地区まちづくり推進委員会」が効果的に事業に取り組めるよう、構想策定を支援した専門家へコンサル業務を委託した。

(2) ①【2年目】公共交通の検討

小山田地区内を走るバス路線「和無田線」が利用状況により廃線となる可能性がある。市と交通事業者と商業者が協力し泊地区に改装オープンした大型ショッピングモール内にバスの結節点を作り、令和2年度には、市がバスを購入して和無田線を走らせる計画があることを市から提示された。公共交通の検討については、この取り組みの動向を見極めて対策を検討することとなった。

(3) ①【2年目】地域イベントの活性化・まちづくり次世代人材の発掘と育成

地区文化祭など既存事業を活性化するイベントを子育て団体など比較的若手で構成された地域団体とコラボして実施する予定であったが、新型コロナウイルス感染防止のため中止した。

また、「まちづくり推進委員会」は、構想に記された関係団体・企業との連携を具体的にすすめるべく、地区内にある一定規模を有する企業・団体4社と委員とで意見交換会を開催し、両者にとって、大変有意義な意見交換会となった。

②【新規】人材データー・ベースの構築と試行事業の実施

「まちづくり推進委員会」が来年度計画する、コアメンバーだけでなく、コアメンバーをサポートする人材のデーター・ベースの構築について取り組むことが委員会で決定した。

2. 【3年目】MAPを活用した事業

小山田地区を再認識することをテーマに「つながるマップ」にあるポイント等を中心に小山田地区内を散策するイベントの第3弾を開催する計画(3月7日)であったが、コロナウイルスの影響により中止となった。

5. 経費

金額単位:円

事業項目(種目)	支出科目	支出金額	内訳
コンサルタント業務	委託料	440,000	5ヵ月間
まちづくり構想製本	印刷製本費	51,150	30冊
ウォーキング開催経費			
需用費	印刷製本費	41,690	カレンダー300枚
消耗品	消耗品費	26,178	諸用紙、インク等
合計		559,018	

6. 目標及び実績

指標	目標	実績
データ・ベース登録人数	5人	0人(取り組み継続中)
若手人材の発掘	1人	1人

7. 成果

- ・コンサルタント業務の委託により、企業との意見交換会の運営がスムーズに運び、地域の望む結果をえることができ、適切な支援とすることができた。
- ・企業・団体との意見交換会の開催により、地元の企業・団体と委員会のつながりが生まれるとともに、地域と企業等が抱える課題は、同じであることが分かるなど両者に大きな発見があり、今後のまちづくりの推進にあたり、「協同の輪」を広げる重要な契機となった
- ・コロナウイルスへの対応によりいくつかの事業が実施不能となったが、地域から実施してほしいとの声があるので、新年度へ向けて開催を予定したい。

8. 今後の展開

- ・まちづくり構想の着実な推進に向け、企業と連携を図るなど、令和元年度は、大きな契機になった。
この流れをしっかりと継続するため、地元住民と密接に協議を重ねながら具体的な方法について検討を進めたい。
- ・一方で企業だけでなく、一般の住民によるまちづくりの担い手を発掘・育成することについても地域性をよく踏まえ検討をすすめる。
特に、人材データ・ベースの実現に向け来年度は、地域へ強く働きかけたい
- ・今年は、市制施行 123 周年記の年であり、助成事業の活用について、こちらについても地域に強く働き掛けていきたい



＜地域との意見交換会の様子＞

令和元年度 地域活動費(館長権限予算) 実績報告書

事業名

地域資源を活用した魅力あるまちづくり、ひとづくり推進事業

地区名

川島

1. 望まれる地域の姿

豊かな自然、歴史、人材などの地域資源を守るとともに、それらの資源を活用して住民同士が交流を深め、互いに支え合い、愛着と誇りを持って安心して住み続けられる地域。

2. 地域の現状

- ・地域住民の高齢化が進んでいる。特に昭和40年代に造成された団地ではその傾向が顕著である。
- ・豊かな自然と歴史的名所・旧跡が残されている。
- ・地域住民によるまちづくり活動は活発に行われているが、担い手の後継者不足に悩んでいる。

3. 課題

・鹿化川の千本桜は市内でも有数の桜の名所であり、地域の重要な資源になっている。これまで桜並木の維持管理を担ってきた「鹿化川の清流と千本桜を守る会」が平成27年に解散し、その後の維持管理の継続が課題となっている。市勢要覧「四日市 STYLE」に千本桜の写真が掲載されていることもあり、シティプロモーションの観点からも桜の維持管理を継続実施できる仕組みづくりが必要である。

・地区内には歴史的価値のある名所・旧跡等が数多く残っているものの、史跡の案内看板やそれを解説した表示板などが設置されていないところがある。また、地域住民にもあまり知られていないところがある。

・まちづくり活動に参加する中心的メンバーが高齢化してきており、活動の停滞が懸念されている。そうした中、今後もまちづくり活動を継続、発展させていくためにも、特に若い世代などの参加を促し、多くの世代が参画できる体制づくり、環境づくりを進めていく必要がある。

4. 実施内容

1 桜並木の保全活動支援【2年目】

地域のボランティアが取り組んできた千本桜の保全活動への支援を実施した。

(1) 鹿化川千本桜の毎木調査

200本の桜を対象に樹木医による毎木調査と樹木診断を実施した。また、今後の保全活動に活用できるよう、その診断結果に基づいて今後の対策方針を立てた。

(2) 千本桜の保全活動支援

桜の管理方法について、樹木医による講義形式の座学講座を開催した。また、ボランティアによる保全活動を行うに際して施肥の方法を現地で指導してもらい、千本桜に肥料や土壌改良剤を与える作業実習を実施した。

(3) 枯枝等剪定

毎木調査により、腐朽が進んでいる樹木や枯枝、落枝の危険があると診断された樹木及び通行の妨げになっている樹木等の剪定を実施した。

2 「川島の歴史講座と史跡めぐり」及び史跡看板設置による川島地区PR事業【新規】

ふるさとの歴史を学ぶための講座の開催を通して、座学と史跡めぐりを組み合わせた、“見て、聞いて、知る”体験型の現場学習会を実施した。

また、川島地区を訪れる人々にわかりやすく名所をPRするため、川島地区内の見どころを紹介する「川島地区ふるさと発見 MAP」の看板を地区市民センター敷地内に設置するとともに、地区内の歴史的遺産などを紹介する史跡看板も併せて製作し、現場付近に設置した。

5. 経費

金額単位:円			
事業項目(種目)	支出科目	支出金額	内訳
桜並木の保全活動への支援	需用費	11,408	保全活動用品ほか
	役務費	2,000	傷害保険料
	委託料	462,000	毎木調査、講義、作業指導
	委託料	275,000	剪定作業
	使用料及び賃借料	31,000	仮設トイレ レンタル料
ふるさとの歴史学習と史跡看板設置	報償費	10,000	講師報償費
	委託料	339,632	看板製作、設置
	役務費	2,000	傷害保険料
合 計		1,133,040	

6. 目標及び実績

指標	目標	実績(見込)
保全活動、案内看板設置、学習会 延べ参加者数	200 人	128 人

7. 成果

・地域の誇りである桜並木の保全活動を通して、地域資源への関心が生まれ、その魅力を再認識し、桜を守り育てていく機運を高めることができた。また、活動に参加することで、住民同士の交流が生まれ、つながりや連携を強化するきっかけにもつながった。

・川島地区の案内看板を設置することで、訪れる人々に目につく形でPRすることができるようになった。

8. 今後の展開

・地域資源を守りながら、それを活用した事業が住民の力で継続的に展開される仕組みづくりを行っていく。

・住民参加型のまちづくり活動が今後も安定的かつ継続的に行われるようにするため、新たな担い手の発掘と育成のための機会の創出と環境づくりを行えるよう、創意工夫を重ねていく。

桜守ボランティア講座（講義）



樹木医による施肥指導



桜並木の保全活動



剪定作業



川島の歴史講座（講義）



史跡めぐり



川島ふるさと発見 MAP 看板設置



史跡看板設置



令和元年度 地域活動費(館長権限予算) 実績報告書

事業名

神前ふれあい
まちづくり ひとづくり

地区名

神前

1. 望まれる地域の姿

様々な地域活動を通じて、地域住民の誰もが地域に根差し、お互いを思いやり、安心して生き生きと暮らしている。

2. 地域の現状

- ・各種団体の活動が活発に行われており、連携を図りながら強い絆で結びついている。
- ・地域の資源として、知られざる名所旧跡等が数多く存在している。

3. 課題

- (1) 各団体の活動の輪をさらに広げるために、女性活躍をより推進していく必要がある。
- (2) 名所旧跡等が地区内外に広く認知されるよう、引き続き効果的な周知を図っていく必要がある。

4. 実施内容

(1) 女性活躍推進事業【新規】

地域活動に積極的に参画する女性の人材を継続して育成した結果、平成 31 年 3 月に地域防災を考える女性の会「アイリス」の設立に至り、地域活動の基盤をひとつ整えることができた。今年度は神前地区における女性活躍推進をさらに後押ししていくため、神前地区連合自治会と協働して、同会への支援を中心に地域活動の充実を図った。

① 女性のための防災減災セミナー

防災活動に女性の視点がなぜ必要なのかを知ることにより、今後さらに女性による防災をはじめ地域活動への参加意欲を向上させることを目的とした。また、被災時の子どもたちを守る方法を知ること、平常時及び災害時に子どもたちを守る行動の再確認、さらには、防災・減災活動に女性の視点が重要であることを、男性を含めた住民の理解に資することができた。

- ・日時 令和2年1月28日(火)9時30分~12時00分
- ・場所 中消防署中央分署防災センターホール
- ・内容 アイリス会員による活動報告

主催研修会や防災視察研修等の報告と活動参加への呼びかけ
防災減災講演会 「その時、子どもたちや地域を守るには！」

講師：国崎信江氏（危機管理教育研究所所長・危機管理アドバイザー）

② 防災視察研修

連合自治会とアイリス会員を中心に、先進地の防災学習施設視察を実施した。災害体験施設において災害を疑似体験することで、防災減災への意識や意欲をさらに高めることができた。また

①のセミナーにおいて視察報告を行い、地域への還元を図った。

- ・日時 令和元年11月20日(水)
- ・場所 人と防災未来センター（神戸市）
- ・内容 発災時の様子の疑似体験、ジオラマ見学、被災者（語り部）のお話等

上記①、②のほか、これまでに取得した知識やノウハウを広げるため、アイリスの会員が地域における伝道師役となるような方向付けを行った。また、会員自身の「習ったことを広めなければ意味がない」との思いもあり、会員自らが講師役となった研修会を3回実施することができた。

(2) 神前地区魅力PR事業【2年目】

神前地区は地域の資源として、里山などの豊かな自然のほか名所旧跡等が数多く存在している。これらの魅力を地区外の方々へPRするほか、神前地区の方々にもよりよく知ってもらい、地域への愛着を深めてもらえるよう、地域活動費を活用しながら、マップや冊子など資料面の充実を図ってきた。引き続きこれらの資料を活用するとともに、本年度においては設置から相当の年数が経過し、老朽化も著しい名所旧跡案内板について、文面等の見直しの検討を含めリニューアルを行った。そのうえで、地区行事において案内板を活用したイベントを開催し、神前地区の魅力PRを行った。

① 名所旧跡案内板のリニューアル

市の補助を受けるなどしながら、地域団体の自主的な取り組みにより設置されてきたが、老朽化が著しく、過去テレビ取材を受けた際に不都合が生じた経緯がある。案内板の文面等の見直しを検討したうえで、主に安価な施工が可能となる上からの重ね貼りにより更新を図った。

② 案内板を活用したイベント開催

地区の恒例行事である「ウィンターウォークラリーin 神前」において、リニューアルした案内板を巡るコース設定を行い、地域資源を知る機会、地域住民のふれあいの場とした。また地区外への参加者依頼も行うなど、神前の魅力の再確認とPRを行った。

- ・日時：令和2年1月26日（日）9:00～13:00
- ・場所：神前地区内西エリア（菅原町、寺方町、高角町）

⇒令和2年度は、東エリア（曾井町、尾平町）にある案内板を巡るコースとする予定

③ 地区行事等におけるPR活動

在庫が僅少となっていたふるさとマップに、新たに案内板の位置を落とし込み、マップのリニューアル（簡易版の作成）も行った。上記防災減災セミナーやウォークラリーなどの地区イベントにおいて配布し、PR活動を行った。団体事務局及び地区市民センターに配備し、来館者に随時配布している。

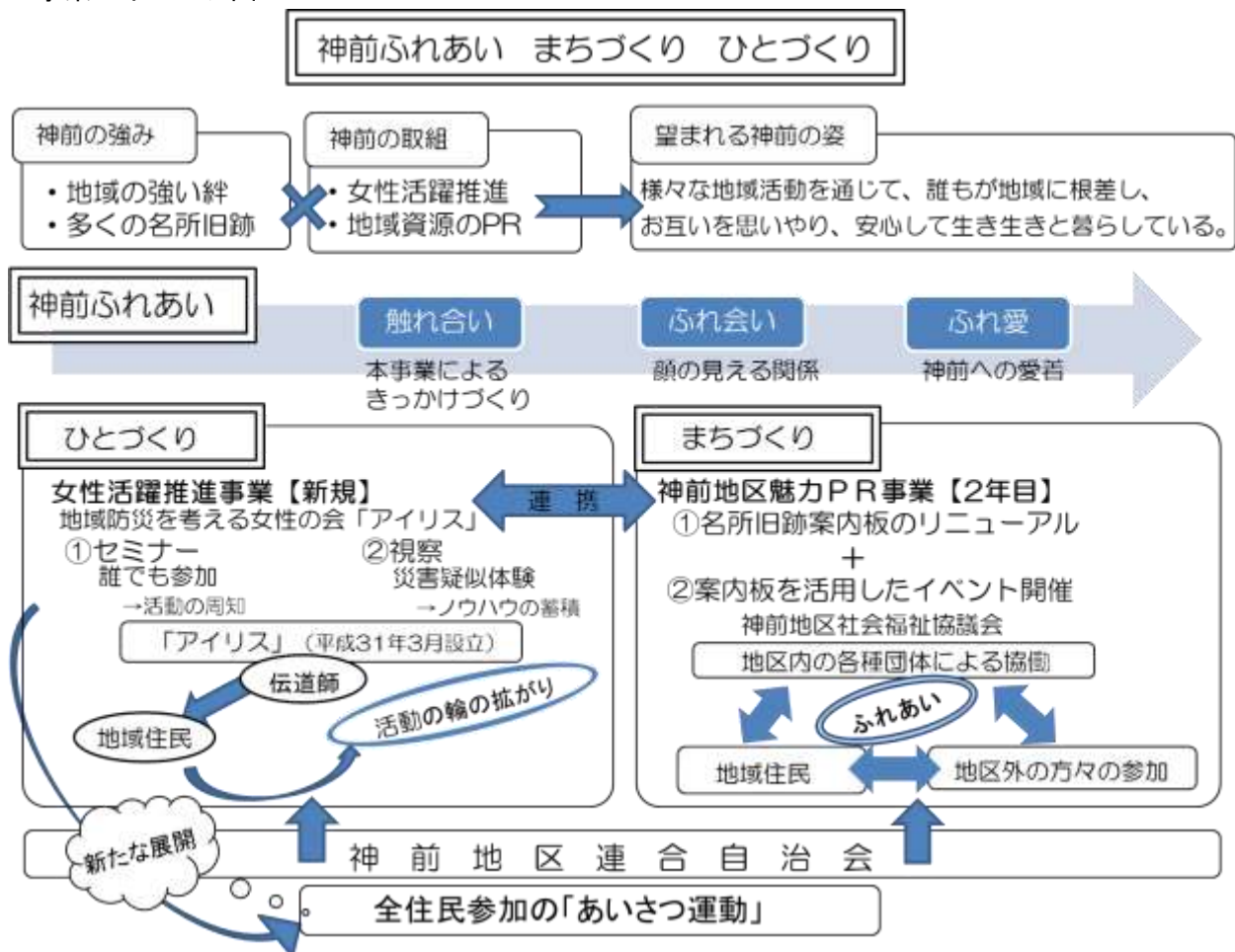
また、ポスター大のマップも作成し、地区市民センターをはじめ地区内の公共施設（小中学校、人権プラザ、消防署分署など）に掲示して、PRしている。

なおマップについては、健康づくりへの関心が高まっていることから、今後、神前版「ARUKU」としての活用も視野に入れながら、さらなる魅力PRにつなげていく予定である。

(3) 新たな展開

地域のつながりをより強くできるよう、上記の事業を意識的に結び付けながら展開したことにより、顔の見える関係の重要性の再認識という波及効果を生み出すことが出来た。具体的には、これまで一部の単位自治会が独自に行ってきた「あいさつ運動」について、令和2年度からは連合自治会主導で、地域コミュニティのさらなる強化のため、全住民が参加する運動として地区全体で取り組んでいくよう動きだしている。

＜事業のイメージ図＞



5. 経費

金額単位:円			
事業項目(種目)	支出科目	支出金額	内訳
女性活躍推進事業	委託料	476, 198	神前地区連合自治会委託
神前地区魅力PR事業	委託料	456, 704	神前地区連合自治会委託
合 計		932, 902	

6. 目標及び実績

指標	目標	実績(見込)
アイリスの会員数	19人(+5人)	19人(+6人、△1人)
魅力PR事業イベント参加数	300人	350人

7. 成果

- (1) 地区全体にわたる女性のネットワークの構築のほか、習得したノウハウをアイリス会員自ら講師役となり、地域へ還元するという一歩踏み込んだ活動ができた。
- (2) 地区の魅力を地区内外にPRすることにより、地域資源の認知度の向上と地域への愛着心の高まりに資することができた。
- (3) 2つの事業を結び付けて展開することにより、波及効果として、新たな事業が芽生えた。

8. 今後の展開

- (1) アイリスへの支援を継続し、さらなる女性活躍を推進していくことにより、住民の地域活動への関心を高め、活動の輪を広げていく。
- (2) 地区内の人には「より深く」、地区外の人には「より広く」、神前の魅力を効果的にPRしていくことにより、自発的に地域活動を担う人材が生まれるよう取り組んでいく。
- (3) 顔の見える関係づくりを行い、地域コミュニティをさらに強化していくため、連合自治会を中心に全住民参加の「あいさつ運動」を展開していく。

《女性のための防災減災セミナー》



会員による活動報告



講演会の様子

《防災視察研修》



参加者のみなさん（人と防災未来センター前）

《魅力PR事業イベント》



参集時の様子



スタート地点の様子



チェックポイントで案内板を確認する様子



令和元年度 地域活動費(館長権限予算) 実績報告書

事業名 心のかよう緑豊かなまち桜へ

地区名 桜

1. 望まれる地域の姿

桜地区では智積養水や一生吹山、矢合川で整備・保存活動が行われており、今後も自然を活かした、地域住民の憩いの場、ふれあいの場として、利用できることが望まれる。地域内での自主活動による環境整備も必要である。

また、子育て世代、高齢者や障害者が安心して生活できる見守りや支援体制の構築、支援者となる人材確保が望まれている。

2. 地域の現状

以前から自然環境の保存活動が行われているが、参加者の減少がみられる。各地区においては活動を行う団体も高齢化などの影響により活発さが薄れてきている。

少子高齢化や核家族化の進行により、福祉支援の需給バランスが需要超過となっている。

3. 課題

住民の方が智積養水や一生吹山、矢合川で自然環境の整備・保存活動やイベントを行っても、変化が乏しく、参加者が固定化傾向にあり、また、桜地区では地区内の有志により結成された「智積自然の会」や「桜花台グリーン隊」、「桜台緑の会」が桜地区内の環境整備を進め地区に貢献されているが、人材及び資材等が不足しており、その活動への支援が望まれている。

子育て世代や障害者の現状や課題を地域住民に説明し、支援する人材の確保が必要である。

4. 実施内容

1 智積養水環境整備事業

・智積養水看板整備

桜地区を代表する名所である智積養水は、国の環境省に名水百選として登録されている。市制 100 周年事業として、平成 9 年に桜駅前に設置された「桜地区ふるさとマップ」の看板は、智積養水や地区内の史跡が描かれたものである。しかし、以後看板は維持修繕が行われず老朽化しているため、今回、社会づくり協議会・連合自治会・社会福祉協議会・郷土史研究会の協力を得て、看板を更新し来訪者への広報を図った【2 年目】

・智積養水清掃活動支援

下記の活動に対し、自走斜面草刈機を導入したことにより、作業時間の短縮・作業の省力化を支援した。

智積養水の機能維持を図るため年数回の清掃活動（水路清掃・水路沿いの草刈り）が行われているが、住民の高齢化により作業の効率化が求められている。今年度は、5 回・延べ 425 名が活動に参加した。【1 年目】

2 地域環境整備事業

下記の活動に対し、刈払機・替刃、鋸などの資機材、反射ベスト・滑り止め器具などを導入し、資機材不足・安全確保の支援を行った。

「桜花台グリーン隊」は地域の環境保全活動を行っており、桜中学校への通学路途中にある街路樹の枝払いや歩道に伸びる草の除草など、また桜地区で利用されているグラウンド周辺の高木の枝払いや竹の伐採など、今年度は、13 回・延べ 113 名が活動に参加した。【3 年目】

「桜台緑の会」は自治会役員の O B で結成された団体で、公会所や子ども広場の除草や剪定を実施しており、今年度は、8 回・延べ 97 名が参加した。【1 年目】

3 地域福祉増進事業

・ボランティア活動支援

下記の活動に対し、講座開催・研修参加・P R チラシ作成を委託し、支援者募集・会員のスキルアップを支援した。

「N P O 法人桜ボランティア協会」は、通院・買物支援、子育て支援、憩いの家、ボランティア農園等の活動を行っている。今回、●付添支援の仕方、●お互いの信頼関係をつくるコミュニケーション術、●通所活動を楽しく運営するには！、(民生児童委員協議会) ●誰でも簡単にできる心身のケア「タッピング・タッチ」をテーマに講座を開催し、2 回・延べ 73 名が聴講した。また協会の役員 4 名が研修「生きがい・助け合いサミット in 大阪」に参加し、その内容を協会内部や上記講演会で発表

し、共有した。さらに、協会のPR誌を作成・配布し、活動紹介とともに支援者の確保に努めていく。

【1年目】

・子育て支援

下記の活動に対し、ジョイントマットを導入し、フロア開催事業での活動の利便性向上を支援した。

「桜地区民生児童委員協議会」は未就園児から小学校低学年を対象とした「子育て応援バンビーノ」を展開している。今年度は、●親子で遊ぼう、●人形劇、●保健師の育児相談など3回・延べ192名の親子が参加した。【1年目】

・障害者（児）支援

下記の活動に対し、防草シートを導入し、除草作業の負担軽減を支援した。

「のびっこ」（障害のある子と親のサークル）がボランティアや地域住民の協力を得て運営する「のびっこ農園」の畦畔に防草シートを設置した【1年目】

5. 経費

金額単位：円			
事業項目(種目)	支出科目	支出金額	内訳
1 智積養水環境整備事業			
・智積養水看板整備	委託料	247,500	看板更新1枚
・智積養水清掃活動支援	備品購入費	190,300	自走斜面草刈機1台
2地域環境整備事業	消耗品費	244,586	刈払機3台、鋸、スコップ等
3地域福祉増進事業			
・ボランティア活動支援	委託料	100,000	講座開催、外部研修参加等
・子育て支援	消耗品費	58,770	ジョイントマット
・障害者(児)支援	消耗品費	58,606	防草シート
合 計		899,762	

6. 目標及び実績

指標	目標	実績(見込)
環境整備の実施回数	15回	21回
講演会の参加者	50人	73人

7. 成果

地積養水や地域の環境整備活動の作業効率化や省力化に寄与した。また、作業を通じての住民同士のコミュニケーションが深まった。

地域福祉事業においては、活動団体のスキルアップや負担軽減、参加者の利便性の向上に寄与した。

8. 今後の展開

今回支援を行った団体の活動が継続・発展するよう各団体への協力を継続する。

しかし、いずれの事業も、参加者が固定化しており、もっと幅広い年齢層や立場の住民に参加してもらえるような企画立案や地域へのPRの強化が必要である。

(実施した事業の写真および写真の説明を添付)

看板 (更新前)



看板 (更新図案)



智積養水の清掃作業



自走斜面草刈機を使用した智積養水の清掃作業



「桜台緑の会」の活動



「桜花台グリーン隊」の活動



「桜ボランティア協会」主催の講演会①



「桜ボランティア協会」主催の講演会②



桜地区民生委員児童委員による子育て支援①



桜地区民生委員児童委員による子育て支援②



「のびっこ農園」の防草シート施工①



「のびっこ農園」の防草シート施工②



令和元年度 地域活動費(館長権限予算) 実績報告書

事業名 もっと住み続けたいくなるまちづくり

地区名 三重

1. 望まれる地域の姿

住民が自らの暮らす地域に愛着を感じ、安心して住み続けられるまちづくりに連帯して取り組んでいる。

2. 地域の現状

高齢化が進む一方、地域での子供を含めた若い世代と高齢者世代の交流の場が減少するなか、連帯感、地域への愛着心が薄れている。

3. 課題

高齢化により地域行事の多くが開催困難になっていくなかで、知識や経験を有する高齢者世代と若い世代が交流する場が少なくなり、地域の連帯感が希薄化し、若い世代では地域への愛着心も弱まっている。高齢化が進む地域で、若い世代も含めて住み続けたいくなる、また帰ってきたいくなるまちづくりが急務となっている。

4. 実施内容

(1) 三重西3世代交流事業【3年目】

- ・食の大切さ教室の開催（8月24日ほか8回開催 参加者延べ300人）
好き嫌いなく何でも食べる子供を育てるなど食育を考える場として「食の大切さ教室」を、地域の大人が主体となって運営して計9回開催し、食を通じた3世代交流を図った。

(2) 自然環境体験事業【新規】

- ・地域の身近な里山である市民緑地において自然体験イベントを開催した。（11月17日、参加者230人）

(3) 地域文化資源啓発事業【新規】

- ・三重郷土資料館の案内板を内容更新した。

5. 経費

金額単位:円

事業項目(種目)	支出科目	支出金額	内訳
三重西3世代交流事業	委託料	350,300	事業業務委託
自然環境体験事業	委託料	260,000	事業業務委託
地域文化資源啓発事業	委託料	30,800	案内板記載内容更新
合 計		641,100	

6. 目標及び実績

指標	目標	実績(見込)
3世代交流延べ参加者数	320人	300人
自然環境参加者数	300人	230人

7. 成果

子供とその親を中心とした地域住民に、地域への愛着心を醸成するための諸事業を、地域の方々が運営の主体となって取り組み、運営側、参加側も含めた地域住民の活力の向上に寄与できた。

8. 今後の展開

さらに、地域力の向上を図る取り組みを続けることで、若い世代も含めて地域への愛着を高め、活発さがある地域を形成していく。

<三重西3世代交流事業>



<自然環境体験事業>



<地域文化資源啓発事業>



令和元年度 地域活動費(館長権限予算) 実績報告書

事業名

あがたの未来へ向けた地域資源の魅力アップと人材育成による地域活性化事業

地区名

県

1. 望まれる地域の姿

将来へ向け地域資源が育まれ、未来を担う人材が育ち魅力アップしていく街

2. 地域の現状

- ・人口が逡減し、高齢化が進行している。
- ・最大の観光資源である竹谷川の桜並木の経年劣化が目立つ。

3. 課題

地域資源の経年劣化、人材の高齢化⇒地域資源の再生と未来を担う人材育成で魅力アップ

4. 実施内容

1 将来へ向けての地域魅力アップ

(1) あがた竹灯り 【2年目】

(時期：10月18日、於：県地区市民センター、参加者：80人)

特産の竹を活用した竹灯籠づくりや竹灯り行事で、地域特産の竹や産地への関心・愛着の醸成を図った。

(2) 竹谷川桜並木の保全再生等による魅力アップ 【新規】

(時期：12～3月、運営参加者：44人)

樹木医による桜の全木診断と診断結果に基づく土壌改良・施肥による樹勢回復措置や地域の保全活動への支援を行った。そのことで、将来にわたって地域住民に育まれる観光資源としていくよう図った。

その一環として、県小学校4年生の授業1時限の中で、竹谷川の蛍と桜を守る会代表による竹谷川桜並木の歴史講義に続き、一緒に土壌改良・施肥を体験してもらう予定だったが、学校事情(※)により中止となった。

※殺人犯逃亡による校外活動自粛(実施当日)及び新型コロナによる一斉休校対策(予備日)

(3) 地域の散策・活動スポットの魅力PR事業 【3年目】

(時期：1～3月)

里山グリーンパーク岡山及びあがた郷土資料館の銘板整備への支援を進め、地域内外に魅力をPRし活性化を図った。

2 地域の未来を担う人材育成

(1) 地域防災を担う女性人材の育成と女性の視点を踏まえた防災の普及 【2年目】

(時期：12月)

地域の女性防災グループの女性の視点を踏まえた防災の取り組みを支援し、地域防災を担う女性人材を育成すると共に、地域での女性防災の普及を図る予定だったが、予定時期にインフルエンザ流行のため実施できず。

(2) 家庭を起点とした多世代交流による家族の絆づくり 【3年目】

(時期：6～2月、於：保育園・小学校等、参加者134人)

手法として世代共通のテーマである防災を用いた。講座で防災意識を醸成した小学生等が家庭で話題にすることで多世代交流による家族の絆づくりを図った。併せて、この種の講座に参加し難い子育て世代等の防災意識も育成した。

5. 経費

金額単位:円			
事業項目(種目)	支出科目	支出金額	内訳
あがた竹灯り	講師報償費、消耗品費	119,192	講師謝礼、電球、照明器具等
竹谷川桜並木の保全再生等による魅力アップ	委託料、消耗品費	576,725	樹木医診断に基づく樹勢回復措置と小学生体験学習委託 地域保全団体への支援(草刈り刃、手袋、長靴等)
地域の散策・活動スポットの魅力PR事業	委託料	293,480	植物銘板作成
地域防災を担う女性人材の育成と女性の視点を踏まえた防災の普及	講師報償費	0	予定時期にインフルエンザ流行のため実施できず。
家庭を起点とした多世代交流による家族の絆づくり	講師報償費、消耗品費、印刷製本費、委託料	151,304	講師謝礼、防災啓発用品、啓発用クリアファイル、マイクロバス運行委託料
合 計		1,140,701	

6. 目標及び実績

指標	目標	実績
将来へ向けての地域魅力アップ及び未来を担う人材育成事業の参加者数	360 人	258 人

7. 成果

地域住民に愛されている竹谷川桜並木の経年劣化に対し、樹木医による全木診断と上流部の土壌改良・施肥を実施すると共に、グリーンパーク岡山の植物銘板整備を行い、将来にわたる地域財産としての再生の第一歩にできた。

防災を手法に、家庭を起点とした多世代交流による家族の絆づくりを図れた。

8. 今後の展開

引き続き、竹谷川桜並木の保全回復を図り地域資源の再生に取り組むと共に、根付きつつある地域を担う女性人材の育成と女性の視点を踏まえた防災の普及を通じて、未来を担う人材育成を行っていく。

令和元年度 地域活動費(館長権限予算) 実績報告書

1 将来へ向けての地域魅力アップ 「あがた竹灯り」



2 地域の未来を担う人材育成

家庭を起点とした多世代交流による家族の絆づくり

「あがたっこ防災」 小学校編



「あがたっこ防災」 保育園編



令和元年度 地域活動費(館長権限予算) 実績報告書

事業名 八郷地区 地域力向上促進事業

地区名 八郷

1. 望まれる地域の姿

『八郷地区まちづくり構想(H25.3)』で掲げるまちづくりの目標:『ひと・自然・ふれあい』～世代を越えた絆のまち八郷～を実現するため、

- 1) ふれあいのある安心して暮らせるまち
- 2) 自然・歴史環境と共存するまち
- 3) 安全に暮らせるまち

といった3つの方針に基づき、「八郷はひとつ」の気持ちのもと、地区住民が主体となってまちづくりを推進していく精神的風土が定着すること。

2. 地域の現状

- ・ 少子高齢化が進む中、世代間や地域間のつながりが次第に希薄化してきている。
- ・ 地域社会づくりの担い手が高齢化してきており、後継者の発掘、育成に苦慮している。
- ・ 一方で、地域住民が各種イベントの企画、運営やHPによる情報発信に積極的に関与し、地域活性化に向けたさまざまな取り組みが精力的に展開されており、地域力向上へのポテンシャルは非常に高いものがある。

3. 課題

- ① 世代を越えて交流し、ふれあいのある安心して暮らせるまちづくりを実現すること
- ② 自然・歴史・文化等の地域資源を再認識し、活用することにより郷土愛を醸成すること
- ③ 地域住民の強い絆に基づく「共助」により、災害への備えができるまちづくりを推進すること

4. 実施内容

1. 八郷地区コミュニティバス等導入検討事業【継続：2年目】

地区住民や地元関係者が主体的に参画して運営する持続可能なコミュニティバス等の導入に向け、昨年度までの取り組みを踏まえ、次のような内容で事業を実施した。

①事業所(通勤者)のニーズ調査

東名阪自動車道四日市東 I.C 周辺に立地する事業所における通勤者ニーズを把握するため、事業所訪問によるヒアリング行った【調査対象：3事業所】。さらには、これら3事業所のうち協力が得られた2事業所の従業員に対し通勤手段に関するニーズを把握するためアンケート調査を実施した【調査対象：合計179件、調査票回収数：120件(回収率67%)】。

(ちなみに、昨年度は住民を対象としたアンケート調査を実施している。)

②有識者による講演会の開催

名古屋大学大学院環境学研究科：加藤博和教授を講師に招き、地域住民主体でコミュニティ交通を構築するための要点等について教示いただいた【演題：『地域自ら地域のおでかけ手段をつくることで地域を守ることができる』、参加者総数は54名】。

③住民主体で構成される検討組織の設立

今後中長期的な視点で地区内のコミュニティ交通手段の導入について検討を進めていくために、「(仮称)八郷地区コミュニティ交通導入検討委員会」を設立した。

2. 八郷地区まちづくり構想戦略マップ作製事業【新規】

「八郷地区まちづくり構想」における課題解決と構想の実現に向け、福祉、交通、環境、歴史、観光、防犯、防災などさまざまな分野における議論を展開する上で有効活用できるような八郷地区全体及びその周辺部までを示した大型の「情報記入型マップ(サイズ1800mm×1800mm)」を2種類作製した。この大型マップは、ホワイトボード用マーカーで何度でも書き込みが可能なように表面にホワイトボード加工を施した。

3. 男女共同参画の視点を取り入れた地域自主防災力向上事業【継続：3年目】

平成29年度から30年度にかけて地域活動費(館長権限予算)により実施した防災セミナーについて、そのすべて又はそのうちの主要なプログラムを受講した八郷地区に在住する女性17名で構成される女性防災チームを設立し(結成日：8/30)、チーム名を「えがお」と命名した。

また、活動時に着用するユニホームとして、メンバー自らがデザインを考案した「オリジナル防災メッシュベスト」を作製した。

当チームは、八郷地区防災連絡協議会(以下、「防災協」と表記)の中に位置付ける組織とし、防災協と協力し、男女共同参画の視点から八郷地区における自主防災活動の推進を図ることを主な任

務とする。まずは今年度の任務として、平成 30 年度に実施した「小学校施設を使った避難所レイアウトづくり」の成果品をベースにし、3 度のミーティングを経て地区内の 2 つの小学校施設避難所レイアウト図として完成させ、これらを八郷地区避難所運営マニュアル等へ反映するよう防災協へ提言を行った。

5. 経費

金額単位:円			
事業項目(種目)	支出科目	支出金額	内訳
八郷地区コミュニティバス等導入検討事業	委託料	498,740	事業所従業員意向等調査 : 374,000
	報償費		講師報償費 : 33,000
			印刷製本費 : 91,740
八郷地区まちづくり構想戦略マップ作製事業	委託料	206,180	情報記入型マップ製作費 : 203,500 事務用品購入費 : 2,680
男女共同参画の視点を取り入れた地域自主防災力向上事業	需用費	114,873	オリジナル防災メッシュベスト製作費 : 105,600 事務用品購入費 : 9,273
合 計		819,793	※詳細別紙

6. 目標及び実績

指標	目標	実績
(仮称)八郷地区コミュニティ交通導入検討委員会	組織化	組織化実現(3/27 付け 設立)
(仮称)女性防災チーム	組織化	組織化実現(8/30 付け 「えがお」設立)

7. 成果

1. コミュニティバス等導入検討事業

昨年度とは対象を変えてアンケート調査などを実施することにより、地域に顕在化する諸課題がより明確になった。

また、有識者による講演会は、今後地域が取り組むべき課題とその解決方法について考えていく上でとても示唆に富んだ内容であり効果的であった。

そして昨年度からの取り組みの総括として、地区住民主体で将来のコミュニティ交通手段の導入について検討していく組織体系ができたことにより当初の目標を達成することができた。

2. まちづくり構想戦略マップ作製事業

地区住民がさまざまな分野における地域課題に取り組む上で、地図を俯瞰しながら議論することは非常に重要であると思われることから、「情報記入型マップ」はとても有用で効果的なツールとなり得ることが期待できる。

3. 地域自主防災力向上事業

3 年掛かりで念願の女性防災チーム「えがお」を誕生させることができ、目標を達成した。

また、昨年度の防災ワークの成果品を元に、男女共同参画の視点から、管内の 2 つの小学校施設の避難所レイアウトについて基本的な考え方をアウトプットできたことは大きな成果であった。

8. 今後の展開

1. 今後は、「(仮称)八郷地区コミュニティ交通導入検討委員会」を中核に据え、地区住民の中で志ある者が主体となって、中長期的な視点で地区内のコミュニティ交通手段の導入について研究・検討を行っていく。

なお、この検討委員会は、今後の研究・検討を進めていく上で、連合自治会長をトップとした対外交渉の窓口となることを想定している。

以上のような取り組みに対し、地区市民センターも全力で支援を行っていくこととする(ただし、経費面での支援は令和元年度まで)。

2. さまざまな機会において地区住民に「情報記入型マップ」を活用してもらうことにより、地区全体を意識した広い視点からまちづくりに取り組んでもらえるよう働きかけていく。

3. 平時においても「えがお」のメンバーが主体的に参画し、具体的な活動ができる“場”を提供できるよう、地区市民センターは八郷地区防災連絡協議会と協働して取り組みを推進する。

併せて、加入メンバーの増加に向けさらなる人材発掘にも注力していく。

1. 八郷地区コミュニティバス等導入検討事業

○有識者による講演会の開催

日 時： 令和2年2月16日（日） 午後2時～
場 所： 八郷地区市民センター 2階 大会議室
講 師： 加藤 博和 氏（名古屋大学大学院環境学研究科 教授）
演 題： 『地域自ら地域のおでかけ手段をつくることで地域を守ることができる』
参 加 者： 54名



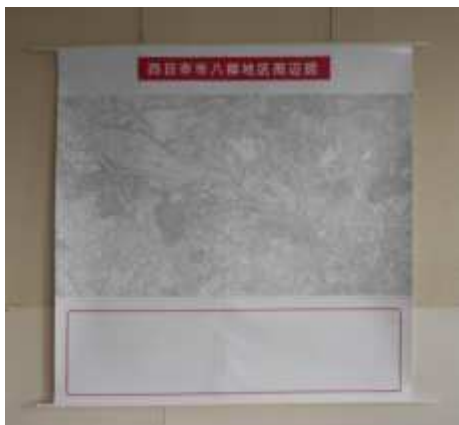
講師：加藤博和氏



講演会の様子

2. 八郷地区まちづくり構想戦略マップ作製事業

○成果品について



(a) 八郷地区周辺図



(b) 四日市市北部ブロック管内図

【地図の仕様】＜(a) (b) 共通＞

- ・サイズ：1,800mm×1,800mm
- ・材質：屋外使用も可能な耐水性フィルム素材
- ・表面加工：ホワイトボード用マーカーでの書き込みが可能なホワイトボード加工
- ・形状：壁掛けが可能なタペストリー仕様
- ・基礎データ：三重県共有デジタル地図 数値地形図（1/2,500）

3. 男女共同参画の視点を取り入れた地域自主防災力向上事業

○八郷地区女性防災チーム **えがお** の設立（令和元年 8 月 30 日）



八郷地区女性防災チーム **えがお** メンバーのみなさん

○**えがお** の活動の様子

チーム結成後、計 3 回のミーティングを実施した。

ミーティングの内容は、避難時における要支援者のさまざまな状況に配慮し、危機管理室から配付された「避難所案内プレート」を一つ一つ確認しながら両校の校舎見取図上に適切に当てはめていくというもので、いずれもメンバー間で熱心な議論が行われた。

そして、これらの最終的な成果品として、八郷小学校及び八郷西小学校の学校施設を使った「避難所レイアウト」における基本的な考え方についてメンバーが男女共同参画の視点からまとめ上げ、八郷地区防災連絡協議会へ提言を行った。



【第 1 回目ミーティングの様子】
八郷地区防災連絡協議会の役員らがアドバイザーとなり、熱心な議論が行われた。
壁面に掲示されているのは、危機管理室から配付された「避難所案内プレート」の数々。



令和元年度 地域活動費(館長権限予算) 実績報告書

事業名

世代を超えたまちづくり

地区名

下野

1. 望まれる地域の姿

地域活動や地域社会づくり、防災活動をはじめまちづくりに世代を超えて参加される地域

2. 地域の現状

高齢化が進む地区がある一方で、児童数が増加している地区も併存している。

3. 課題

地区内では高齢者世帯が増加する一方で子育て世帯が増加する地域もあり、二極的な構成が進んでいる。地域での交流が希薄になっていくことが懸念され、今後は世帯、世代を超えた住民間の交流と理解が深まるように進めていく必要がある。

また、大規模災害時には住民同士の助け合いが極めて有効であり、平常時から交流と理解を進めておくことが重要である。

4. 実施内容

防災キャラバン

住民の世代間交流と連携強化を図り、ひいては地域の防災力向上を目的として小中学生を対象に年長者や大人と関わりながら取り組む「楽しく学ぶ防災キャラバン」を開催した。避難所の疑似体験とともに実践的なワークショップ等を行い、子ども達の防災意識の向上と世代を超えて地区を支える意識、さらにまちづくりに参画する意識の醸成につなげて地域の次世代後継者の育成の一助とした。

ふるさとマップ

地域資源を見直し、地域への愛着とまちづくり意識の醸成につなげるべく地区マップを作成した。

地区ホームページ活用による地域団体活性化

地区団体ホームページの活性化と安定的な運営を進めるべく、掲載内容の企画や管理運営を行うための講習会を開催した。

地区まちづくり構想における河川空間活用

地区まちづくり構想で定める朝明川の河川空間周辺の有効活用について検討し、構想イメージを作成する。→ 内容につきさらに検討を深めたうえ、次年度以降で着手することとしたい。

5. 経費

金額単位:円

事業項目(種目)	支出科目	支出金額	内訳
楽しく学ぶ防災キャラバン	委託料	388,000	委託先:下野地区連合自治会
地区ふるさとマップ作製	需用費	539,000	4,000 部
地区ホームページ活用による地域団体活性化	委託料	90,000	委託先:下野地区まちづくり委員会
地区まちづくり構想における朝明川河川空間の活用	委託料	(100,000→0)	委託先:下野地区まちづくり委員会
合 計		1,017,000	

6. 目標及び実績

指標	目標	実績
防災キャラバン参加者	30 名以上	37 名
講習会の開催数	10 回以上	10 回

7. 成果

防災キャラバン

子ども達が、避難所生活の疑似体験により非常時に役立つ知識やスキルとともに、自分たちで考え行動する力を身につけることができ、より具体的な防災意識を持つことができた。

地区ふるさとマップ

地図により身近な地域を改めて見直し、魅力を再発見してふるさと意識の醸成につながる事が期待される。

HP 活用活性化

地区ホームページの管理運営に係る人材育成とホームページ作成のスキルアップを図ることができた。

8. 今後の展開

防災キャラバンについて実施後のアンケート結果によると「とても楽しかった」「来年も参加したい」との声が大多数であり、来年度以降も実施して地区全体の防災・減災意識の向上を図るべく継続的に取り組んでいきたい。

また、今後も地区ホームページの活性化が持続的に行われるように働きかけを継続し、地区の諸団体の活動とPRが一層進むように関わっていく。

[防災キャラバン 開講]



[ペットボトルランタン作り]



[火おこし体験]



[ロープワーク]



[バケツリレー]



[避難所体験・寝床づくり]



[空き缶炊飯]



[夕食]



令和元年度 地域活動費(館長権限予算) 実績報告書

事業名	素晴らしい「環境」を継承する まちづくり事業
-----	---------------------------

地区名	大矢知
-----	-----

1. 望まれる地域の姿

安心して暮らせる生活「環境」を育み、豊かな自然「環境」を守り、歴史・文化的「環境」を次世代に引き継ぐために活動する地域。

2. 地域の現状

若年層の人口増加により、世代間のコミュニティが希薄となってきている。一方では、里山などの豊かな自然や多くの歴史遺産が残っている。

3. 課題

大矢知地区では、宅地開発により若年層の人口増加が顕著であり、人と人との繋がりが希薄となり、世代間のコミュニティが弱体化してきている。また、地区内にある豊かな自然や歴史的遺産の認知度も低い。このため、コミュニティの再形成を進めることや、自然や歴史的遺産などの大切な資源や環境を守り生かしていくことが望まれている。

4. 実施内容

① 身近な交流の場づくりプロジェクト 【2年目】

地区市民センターや地区内の集会所などを会場として「街なかサロン」を開催し、頭の体操や健康吹矢など、子どもから高齢者が参加できるゲームを行い世代間交流を図る。また、親子で参加できるお菓子づくりなどの講座を開催する。

	開催日・回数	参加者数
街なかサロン	毎月第3木曜日 12回	163名
お菓子づくり	6/29,10/26,12/7の3回 (2年目)	66名
麺料理	8/31,11/16,2/15の3回 (3年目)	62名
健康吹き矢体験会	5/11,6/15,7/13,8/10,9/15,11/16,12/14,1/11,2/8,3/14(予定)の計10回	459名
	計	750名

② 朝明川自然学習公園化プロジェクト 【2年目】

朝明川堤防で整備した散策路を生かし、朝明川周辺の自然や朝明川に生息する生き物の観察会を開催する。

	開催日・回数	参加者数
生き物観察会	8/26の1回	25名
	計	25名

③ 歴史・文化の継承プロジェクト 【新規】

東海道や久留部官衛遺跡をはじめ、古くからの歴史のまちとして発展してきた大矢知地区には、数々の歴史的遺産が多く点在している。この歴史的遺産を、広く地区内外に紹介し継承していくために、歴史散策マップを作成する。

	MAP 原稿検討会議	参加者数
大矢知地区ふるとMAP	6/28,7/23,10/21,11/22,12/20,1/21,1/28,2/18	82名

④ ふれあい音楽会 【新規】

公民館や集会所など、生活に身近な場所で、弦楽器や管楽器などでの軽音楽に親しんでもらう機会を創出し、こどもからお年寄りまでが参加できる、ふれあい音楽会を開催する。また、その音楽会が、演奏できる人材の発掘の場となり、演奏を通じて新しいつながり、輪が広がる場を設ける。

会場	ふれあい音楽会開催日時	参加者数
垂坂町公会堂	2月22日10時～	42名
松寺公会所	2月22日14時～	59名
	計2回	101名

5. 経費

金額単位:円

事業項目(種目)	支出科目	支出金額	内訳
身近な交流(お菓子・麺料理)	講師報償費	18,000	地元講師 3,000 円×6 名
身近な交流(お菓子・麺料理)	需用費	39,005	講座材料(6 回分)
朝明川自然学習(生き物観察会)	講師報償費	20,000	専門家
朝明川自然学習(生き物観察会)	需用費	1,224	名前掲示用ラベル
朝明川自然学習(生き物観察会)	需用費	4,328	ゴーグル
歴史・文化(ふるさとMAP)	委託料	863,390	レイアウト・印刷製本 10,000 部
歴史・文化(ふるさとMAP)	需用費	49,500	ふるさとMAP増刷印刷
ふれあい音楽会	委託料	110,000	アーティスト、音響・照明設置 操作
ふれあい音楽会	その他使用 料	3,300	音楽会演奏曲著作権
合計		1,108,747	

6. 目標及び実績

指標	目標	実績
各プロジェクトへの参加人数及び 講座への参加者数	900人	958 人 ① 身近な交流 750 人 うち講座参加者 128 人 ②朝明川公園化 生き物観察会参加者 25 人 ② 歴史・文化継承 82 人 ③ ふれあい音楽会 101 人
プロジェクトボランティア数	90人	197 人 ① 身近な交流の場 88 人 ②朝明川公園化 25 人 ③歴史・文化 82 人 ④ふれあい音楽会 2 人

7. 成果

プロジェクトスタッフにおいては、講座や観察会に思い入れがあり、地域住民で一つの事業をやり遂げる一体感や、受講の成果や達成感が、受講者から終了時に感じられ、地元環境へ愛着や、地域でのつながりについて、意識の高揚が感じられた。

8. 今後の展開

昨年度より行っている事業については、口コミや友人を誘ったりして、新たなつながりが出来ているので、来年度以降も、そのような広がりを期待し、ふるさとMAPは、地域住民の目に触れ手元に残る資料であり、個人の地元愛や思い入れという潜在意識をくすぐりながら、地域活動参加者増への、起爆剤をして利用していく。

(お菓子づくり)



(麺づくり)



(生き物観察会)



(ふれあい音楽会)



令和元年度 地域活動費(館長権限予算) 実績報告書

事業名	かけがえのない魅力をまもり育てる 河原田のまちづくり事業	地区名	河原田
-----	---------------------------------	-----	-----

0

1. 望まれる地域の姿	2. 地域の現状
先人から受け継いだ地域の自然環境、歴史や文化を守り育て、次世代に引き継ぐ活動を通じて、河原田地区の魅力を高め、郷土への愛着と誇りを育む地域。また、「河原田地区まちづくり構想」に沿って地域の現状を考察し、設定した課題への取り組みを着実に進めることができる地域。	近年、地区内外の人口流動等により住民どうしの交流が希薄化し、かつての地域力は徐々に弱まる傾向にあります。みかん山や桜並木、内部川・鈴鹿川水域、伊勢街道沿いの佇まいなど歴史的なまちの資産も残されているが、高齢化、後継者不足などにより伝統文化や住民交流によるコミュニティの維持、継承は困難となりつつあります。

3. 課題
地域の現状から窺える問題点の解決を図るため、「さえ愛のまち河原田」をまちづくりの目標として策定した「河原田地区まちづくり構想」のもと、主要プロジェクトの推進により地域の魅力を再発見する取り組みを展開します。また、地域資源を保全、育成する活動を通じて、これまで培われてきた地域力の維持を図るとともに、世代間交流をはじめとする住民どうしの繋がりを深め、学校、企業等との連携による地域の活性化に取り組みます。 「河原田まちづくり構想」主要プロジェクト 地域の歴史資源を保存、継承する活動を通じて、住民どうしの交流を促進しコミュニティの維持、活性化に向けた取り組みを進めます。(かわらだ交流プロジェクト・まちなか整備プロジェクト) また、地域景観の保全、活用により、河原田地区ならではの魅力を高め、郷土への愛着と誇りを育んでいきます。(みかん山プロジェクト)

4. 実施内容
◎みかん山プロジェクト(「河原田地区まちづくり構想」主要プロジェクト) 『かわらだブランド発掘事業』【2年目】 地域住民をはじめ河原田小学校児童(6年生)の協力を得て、みかん山周辺に自生する「竹」を活用した「竹灯り(約120器)」を製作。また、今年度は「河原田みかん」を活用して、成熟前の「摘果みかん」で「飾り炭」を製作し地区文化祭に出展したほか、「河原田みかん灯り(2器)」の製作にも取り組み、竹灯りとともに河原田地区ならではの独自色を取り入れた点灯イベントを開催しました。 『かわらだ景観育成事業』【3年目】 伊勢街道情緒を高める契機として河原田小学校児童(5年生)の協力を得て、伊勢街道案内板(9器)の製作に取り組みました。完成した案内板について、地域の三世代交流行事でお披露目を行ったほか、地域の方々や伊勢街道を往来する人の目にふれるように街道に面した小学校フェンスに設置しました。【予定→また、地域を代表する景観資源である「忘帰處」の眺望改善を図るために、樹木の剪定作業をはじめ地域住民による「忘帰處」周辺環境の美化活動に取り組みました。】

5. 経費

金額単位:円			
事業項目(種目)	支出科目	支出金額	内訳
かわらだブランド発掘事業	委託料	418,000	竹灯り、みかん灯り製作消耗品 点灯イベント開催経費
かわらだ景観育成事業			
①伊勢街道情緒PR	委託料	99,000	画材、塗料、加工用具類
②忘帰處眺望改善(予定)	委託料	495,000	高所部樹枝剪定委託 除草、園芸用具類
合 計		1,012,000	

6. 目標及び実績

指標	目標	実績(見込)
河原田ブランド製作件数	3件	1件

7. 成果

総括的には、「河原田地区まちづくり構想」主要プロジェクトに沿って、令和元年度においても地域活動の展開が図られたものと考えます。具体的には、竹灯りや河原田みかん灯り、伊勢街道案内板を手作りで仕上げていく活動や忘帰處に代表される地域の景観資源を守り育てていく取り組みについて、地域の方々や小学校児童、各種団体のみなさんなど子どもから高齢者まで多くの方々の参画を得られたことは、今後、河原田地区のまちづくりを進めていくうえで重要な素地ともなってきます。特に、他の地域にはない河原田地区ならではの特長を再発見する試みとして、「河原田みかん」、「伊勢街道」や「忘帰處」などにスポットをあてた活動は、河原田地区の魅力を高め、郷土への愛着と誇りを育んでいくための契機として地域のみなさんに提供できたものと考えます。

8. 今後の展開

今年度当初においては、地域の歴史を保存、継承する活動を通じて、高齢者を中心とする交流拠点を整備、展開する取り組みについても計画していたところですが、地域活動費(館長権限予算)の適用による具体的な事業実施には至りませんでした。しかしながら、地元の歴史に興味、関心のある方々や高齢者を中心とする有志のみなさんにより、事前の準備活動が進められつつあることから、これら地域における自発的な活動を見守りながら、地域活動費(館長権限予算)により、これまで取り組みを行ってきたことの成果や河原田地区における今日的な課題、そして将来的な展望に結び付く活動として展開していけるよう支援していきたいと考えます。

『かわらだブランド発掘事業』

○灯り筒用竹伐採(令和元年 10 月 5 日)



○竹灯り製作講座 11 月 30 日(地域住民対象)



○竹灯り製作講座 12 月 4 日・6 日(河原田小学校 6 年生と地域住民の協働)



○みかん炭（令和元年 10 月 26 日 地区文化祭展示）

○点灯イベント風景（令和元年 12 月 20 日）



竹灯り①



河原田みかん灯り①

竹灯り②

河原田みかん灯り②



『かわらだ景観育成事業(伊勢街道情緒PR)』

○ 河原田小学校 5 年生による伊勢街道案内板製作作業 (令和元年 11 月 26 日、12 月 3 日)



○完成案内板[木板]



表忠碑 平和の礎



又兵衛橋



常夜燈



河原田神社



忘帰處



老人会(寿会)による子どもの見守り活動



河原田小学校



『かわらだ景観育成事業(忘帰處眺望改善活動)』【予定】

令和元年度 地域活動費(館長権限予算) 実績報告書

事業名 地域力を活かしたまちづくり事業

地区名 水沢

1. 望まれる地域の姿

広大な自然と豊かで温かい人間関係が作り出す、水沢独特の癒しの空間・時間（水沢時間）を、水沢ファンとともにいつまでも保存し、維持していく。

2. 地域の現状

豊かな自然環境とトップレベルのお茶の生産地、すぐれた伝統芸能と豊かなコミュニティの維持を行っているが、人口減少、コミュニティの希薄化がゆっくり進んでいる。

3. 課題

水沢地区まちづくり構想の中で「水沢」の魅力アップを目指す施策が策定され、地域の活性化を目指す活動の取組がされているが、応援が必要である。

- ・既存の補助金等では、初期活動の山を越えづらい状況がある。
- ・まちづくりの担い手が不足している。
- ・地域の魅力の情報発信が弱い。
- ・今後の継続、発展を考慮すると、地域主導の活動が望ましい。

4. 実施内容

① すいざわ観光マップ作成事業【新規】

水沢を訪れた方に対して名所・旧跡・史跡をPRするため、地域住民の手で地図の作成を行った。この地図作成に関わることで、地域の絆が深まるとともに、散策・観光用地図として来訪者に分かりやすく、親しみやすい情報提供を行うことができるようになった。

② 水沢元気なまちづくりの会事業【2年目】

地域のPR活動としてもみじ祭りと同時に「楽し市」を開催した。活動の実施や企画・開催するための打ち合わせ会議を行うことで、人材交流や情報交換、地域内の新規人材の発掘ができ、地区内外の絆づくりを行うことができた。また、「楽し市」にはおよそ 3,000 名の来場者があり、自然名勝、地域産業、特産品等による地域PRを行うことができた。

③ すいざわマラソン大会・体力測定会事業【2年目】

地区内外の絆の輪を広げ、また、地域住民のつながりを深めるため、マラソン大会と体力測定会を行った。延べ参加者は 160 名を超え、地区内外の新たな人材交流を行うことができた。

④ 星の広場周辺整備事業【新規】

水沢の市民広場である星の広場周辺を、来訪者により親しんでもらえる場所とするため、さくらともみじの植樹を地域住民の手により行った。事業の実施により住民どうしの交流を図り、もみじの季節である秋だけでなく、春も観光客に親しまれる名所としての魅力向上を図った。

⑤ 新規郷土芸能開拓事業【2年目】

地域の宣伝や地域間交流のため、地域住民の誰もが参加できる新規の郷土芸能を、祭りや運動会、文化祭などのイベントで発表・披露した。また、振り付け講座を開催し、世代間交流により地域の絆づくりを進めた。

⑥ 地域情報発信事業【新規】

ウェブマップ上に水沢の名所・旧跡・史跡を登録し、詳細な情報を発信するなど、水沢地区ホームページを拡充することで、名所や地域特産品のPRを行い、水沢への来訪者の利便性の向上を図った。

5. 経費

金額単位:円			
事業項目(種目)	支出科目	支出金額	内訳
すいざわ観光マップ作成事業	委託料	315,502	マップ印刷、マップデザイン、会議用飲料
水沢元気なまちづくりの会事業	委託料	140,000	器具レンタル、資材、ポスター等制作
すいざわマラソン大会・体力測定会事業	委託料	209,990	消耗品、参加賞
星の広場周辺整備事業	需用費	94,626	整備用消耗品
	委託料	220,000	整備用資材
新規郷土芸能開拓事業	委託料	186,500	法被作成
地域情報発信事業	委託料	33,000	ウェブ作業
合 計		1,199,618	

6. 目標及び実績

指標	目標	実績(見込)
すいざわ観光マップ作成事業参加者数	10 人	19 人
すいざわマラソン大会・体力測定会事業参加者数	300 人	163 人
星の広場周辺整備事業参加者数	30 人	38 人
新規郷土芸能開拓事業参加者数	30 人	30 人

7. 成果

星の広場周辺に桜を植樹することで、もみじの季節である秋だけでなく、春の時期の魅力も向上した。また、水沢の観光資源をPRするため、観光マップの作製やウェブマップの整備を行うことで、来訪者の利便性の向上を図ることができた。その他、「マラソン大会」や「市」の開催、新規郷土芸能の開拓により、人材交流（世代間交流）や情報交換、地域内の新規人材の発掘を行うことができた。

8. 今後の展開

地域活動の開拓、発展、活性化及び充実並びに、まちづくり構想の実現にむけた担い手づくりや活動支援に、市が動いていることを実感してもらうため、引き続き地域活動の援助を主体に行う。

- ・水沢地区社協や水沢元気なまちづくり会等への支援業務委託を通して、情報機器等による地区PRの充実を図る。
- ・史跡、名勝保存会等への支援業務委託により、地区財産の保全活動、自然環境PR体制の充実を図る。など

すいざわ観光マップ作成事業



水沢元気なまちづくりの会事業



すいざわマラソン大会・体力測定会事業



星の広場周辺整備事業



新規郷土芸能開拓事業



地域情報発信事業



加治信濃守城跡

山「加治城」跡（1598年）は信濃守の城。計1000坪の城跡が残り、その跡に「加治城跡」の石碑が建てられた。その後、天保11（1840）年に火災で城跡が消失した。現在、城跡跡地の南と西に土塁が残り、遺跡の調査範囲に利用されている。



令和元年度 地域活動費(館長権限予算) 実績報告書

事業名	自助・共助のまちづくりと自然環境の保全事業	地区名	保々
-----	-----------------------	-----	----

1. 望まれる地域の姿	2. 地域の現状
地域交流が活発に行われ、災害等非常時においても助け合いが行われる。 地区の将来像を地区住民自らが描き、その実現に向けて取り組んでいる。 豊かな自然環境の保全に地区住民の皆が取り組み、次世代に引き継いでいる。	豊かな自然環境に恵まれ、旧来の集落を中心とした地域の繋がりが強いが、高齢化が進んでいる。

3. 課題
災害発生時や急病時に被災者・患者の緊急連絡先や持病などを迅速に把握することが困難。 地域における自助・共助の活動をより強化する必要がある。 今年度から地区まちづくり構想の策定に取り組むにあたり、策定委員が地区内の各種情報を共有できていない。 地域行事への参加者が固定傾向にある。 地区内の豊かな自然環境を次の世代に引き継ぐため、地区内の自然に触れる機会を増やす必要がある。

4. 実施内容
(1)救急医療情報キット作成・配布 【1年目】 災害発生時や急病の際に、第三者が緊急連絡先や医療情報を把握できるように救急医療情報キットを作成し配布した。 (1月下旬から自治会により地区内に配布)
(2)地区まちづくりマップ作成 【1年目】 今年度から地区まちづくり構想の策定に取り組むため、策定作業時に議論の対象となっている場所がどこなのかを委員が把握しやすいように、史跡や危険個所などの情報を記載した壁掛け型のマップを作成し、令和2年2月25日の第2回策定委員会において、委員に披露した。第3回以降の策定委員会において、活用していく。
(3)地区行事予定カレンダー作成・配布 【1年目】 自治会をはじめとする地区内の各種団体の行事予定を記載したカレンダーを作成・配布し、地区行事を把握しやすくした。 (令和2年3月、地区内に配布)
(4)遊歩道整備 【3年目】 自然保護活動団体の協力を得て、材料支給の方法により里山に擬木の階段(14段)を設置し、里山保全活動を行いやすくするとともに、人々が訪れやすくなるよう遊歩道整備を行った。

5. 経費

金額単位:円			
事業項目(種目)	支出科目	支出金額	内訳
救急医療情報キット作成・配布	需用費	677,500	救急医療情報カード他
地区まちづくりマップ作成	委託料	190,300	データ作成、地区マップ
地区行事予定カレンダー作成・配布	需用費	35,200	行事予定カレンダー
遊歩道整備	需用費	113,400	擬木階段
合 計		1,016,400	

6. 目標及び実績

指標	目標	実績(見込)
救急医療情報キットに対するアンケートにおける良評価の割合	80%以上	87%
地区まちづくりマップに対するアンケートにおける良評価の割合	80%以上	80%

7. 成果

救急医療情報キットの配布により、災害時等における自助・共助の意識啓発ができた。

まちづくりマップの作成・活用により、まちづくり構想策定作業における効率的な議論が期待できる。

地区行事予定カレンダーの配布により、地区行事の実施日が把握しやすくなる。

擬木階段の設置により、里山を訪れやすくなり、地域の自然に触れやすくなることで、住民の自然保護・自然資産の重要性の認識が高まり、次世代に豊かな自然を引き継いでいくことができる。

8. 今後の展開

救急医療情報キットが活用されるよう、センターだよりには使用方法などの記事を定期的に掲載し、PRしていく。

地区まちづくりマップを、まちづくり構想策定後の地区住民自らの取り組み時等においても、位置情報の共有等に活用していく。

地区行事予定カレンダーの作成を地区連合自治会へ引き継ぎ、地区住民の地区行事への参加意識を醸成していく。

1 救急医療情報キット作成・配布



2 地区まちづくりマップ作成



3 地区行事予定カレンダー作成・配布

保々地区行事予定カレンダー

4月		5月		6月		7月		8月		9月	
1 水		1 金		1 月		1 水		1 土		1 火	
2 木		2 土		2 火		2 木		2 日		2 水	
3 金		3 日 憲法記念日		3 水		3 金		3 月		3 木	
4 土		4 月 みどりの日		4 木		4 土		4 火		4 金	
5 日		5 火 こどもの日		5 金		5 日		5 水		5 土	
6 月		6 水 憲法の日		6 土		6 月		6 木		6 日 地区歌謡訓練	
7 火		7 木		7 日		7 火		7 金		7 月	
8 水		8 金		8 月		8 水		8 土		8 火	
9 木		9 土		9 火		9 木		9 日 地区観光客迎撃会		9 水	
10 金 鎌倉自治会総会		10 日		10 水		10 金		10 月 山の日		10 木	
11 土		11 月		11 木		11 土		11 火		11 金	
12 日		12 火		12 金		12 日		12 水		12 土	
13 月		13 水		13 土		13 月		13 木		13 日	
14 火		14 木		14 日		14 火		14 金		14 月	
15 水		15 金		15 月		15 水		15 土		15 火	
16 木		16 土		16 火		16 木		16 日		16 水	
17 金		17 日		17 水		17 金		17 月		17 木 保々中学校体育祭	
18 土		18 月		18 木		18 土		18 火		18 金	
19 日		19 火		19 金		19 日		19 水		19 土	
20 月		20 水		20 土		20 月		20 木		20 日	
21 火		21 木		21 日		21 火		21 金		21 月 敬老の日	
22 水		22 金		22 月		22 水		22 土		22 火 秋分の日	
23 木		23 土		23 火		23 木		23 日		23 水	
24 金		24 日		24 水		24 金		24 月		24 木	
25 土		25 月		25 木		25 土		25 火		25 金	
26 日		26 火		26 金		26 日		26 水		26 土	
27 月		27 水		27 土		27 月		27 木		27 日	
28 火		28 木		28 日 地区人権まちづくり推進第1年		28 火		28 金		28 月	
29 水 秋分の日		29 金		29 月		29 水		29 土		29 火	
30 木		30 土		30 火		30 木		30 日		30 水	
		31 日				31 金		31 月			

※主催者の都合等により日曜が変更になる場合があります。

保々地区公民センター(西339-3130) 【利用時間】(月～木、金) 10:00～17:00 (土) 13:00～17:00

発行：保々地区連合自治会
保々地区市民センター

4 遊歩道整備
(設置作業)



(設置完了後)



令和元年度 地域活動費(館長権限予算) 実績報告書

事業名 つながる「海蔵」事業

地区名 海蔵

1. 望まれる地域の姿

市の観光資源になっている海蔵川堤防の桜並木を中心とし、河川敷や菖蒲園を市民（地区住民を含む）誰もが自然を感じる憩いの空間として利用できる。

2. 地域の現状

春の桜まつりとして、四日市観光協会の五大まつりと紹介されて、人も集まるが、地域資源の海蔵川周辺が有効に活用されていない。

桜並木をはじめ、菖蒲園を含む河川敷周辺の環境保全活動を実施する地域団体のボランティアが固定化している。

3. 課題

- ① 毎年3月から4月にかけて、海蔵川桜まつりが開催されるが、このまつりの企画運営が地域のボランティアで構成される実行委員会で実施されている事実があまり知られていない。
- ② ボランティアによる堀川菖蒲園の管理運営や菖蒲園まつりに関わっている人も固定化しており、関心の薄い地域住民も多く、担い手の確保や技術の伝承が難しい。

4. 実施内容

I. 「人」 【1年目】

桜まつり実行委員会が関わる海蔵川清掃などの一連の関連事業を継続するとともに、昨年度作成した「桜まつり実行委員会の活動記録」(DVD)を活用し、まつり準備作業をはじめ、企画運営に関わる事項について、将来を担う次世代へのノウハウの伝承に活用する。

平成28～30年度に実施したアンケートによれば、地域ボランティアによる運営であるとの認知度(H29 認識度 約49%→H30 認識度 約67%)に高まりはあるものの、まつり開催時の本部及び警備要員の「祭絆纏」着用によるPRに努めたい。

同様、PR活動として堀川菖蒲園花菖蒲育成会でも「PRジャンパー」着用による育成活動を行い、担い手確保を図る。

II. 「花」 【1年目】

専門家による育成講義などをはじめ管理の助言指導をうけ、生育環境をよりよくするための整備は整いつつある。

『つながる「海蔵」』に向けて、次のステップである「美しさ」を地域と一緒に追求する。

III. 「道」 【1年目】

地区内にある『東海道』を隣接する橋北地区とつなげ、連続性をもたせたい。

また、三滝新川(分派)の整備に向けた動きに合わせ、海蔵川における河川整備への提案を検討する。

5. 経費

金額単位:円			
事業項目(種目)	支出科目	支出金額	内訳
「人(ひと)」	需用費	340,230	【桜】祭神纏製作
「花(はな)」	需用費	29,480	【花菖蒲】軽量シヨベル
「道(みち)」	委託料	385,000	【東海道・海蔵川】図面作成
合 計		754,710	

6. 目標及び実績

指標	目標	実績
桜まつり管理運営が地域ボランティアである認識度	70%以上	アンケート調査 実施不可(見込み)
堀川菖蒲まつり来場者満足度アンケート	90%以上	—

7. 成果

- ・海蔵川河川敷の保全に関する情報は、地区内外に発信でき、桜並木や菖蒲園の保全活動への関心を高めるよう取り組めた。
- ・地区都市マス委員会において、「海蔵川緑地」を検討項目のひとつとして考えていく機運が高まった。

8. 今後の展開

- ・毎年実施の桜の剪定や河川敷の清掃により、良い環境が保たれ、健康づくりや運動の場としての利用も進み、海蔵川河川敷が憩の場として四日市市の中心的位置を占める緑地となる。さらに、海蔵川桜まつり、堀川菖蒲園のPRを行っていく。

「花」



【桜】第30回「皆できれいに海蔵川の日」
海蔵川左岸：樹木剪定及び雑木除去



【花菖蒲】菖蒲まつり（6/2～6/16）
まつり開催前の除草作業後

令和元年度 地域活動費(館長権限予算) 実績報告書

事業名 TSUNAGARU 橋北～2019

地区名 橋北

1. 望まれる地域の姿

世代を超えて助け合えるようなコミュニケーションが豊かなまちとなり、多様な世代の住民が地域の課題を自ら解決していけるような地域となる。

2. 地域の現状

地域住民が減少し高齢化が進む一方、今後のまちづくり活動を支える人材が不足している。
地域の課題は関係者が個別に認識をしているが地域全体として課題を共有したうえでともに取り組む、解決するという取組みに繋がっていない。

3. 課題

橋北地区都市計画マスタープランに基づき各種団体がまちづくり活動を展開しているが、高齢化の進展に伴い地域づくりを支える人材が不足していることから、現在活動している世代の次の世代でまちづくり活動に取り組もうとする意欲のある人材を発掘、育成し、地域の課題解決に向けた様々な取組みが展開できるような雰囲気を作り出すことが必要である。

(1) 高齢化が進む地域での支え合いのセーフティネットの強化が必要

高齢化が進む地域において各種団体が活動をしているなかで介護保険制度ではサービス対象とならない部分を住民が支え合えるような仕組み作りが不可欠であるが、「介護」「認知症」という課題が住民に十分に直面する課題として共有されていないことから地域の課題として認識し、それを支え合う組織や取り組みを行う必要がある。

(2) 大規模災害への備えが必要

三滝川と海蔵川に囲まれた地域であり大規模災害に見舞われるリスクが高い地域であるが、高齢化が進んでいるなかで、平常時からの「備え」、発災後の「備え」について住民の認識が十分なものになっていないことから大規模災害への地域としての備えが十分でない。

(3) 心で繋がる取組みが必要

地域にあるソフト財産も活かしつつ、地域の多様な世代が参加し、「繋がる」ような仕掛けを行う工夫をすることでお互いの温かみを感じられるような地域づくりが必要である。

4. 実施内容

(1) セーフティネット強化事業＜3年目＞

多様な世代が高齢化する地域の様々な課題（高齢化に伴い発生する課題、介護を巡る課題など）を地域全体で共有するとともに、世代を超えて交流することで、ともに課題の解決に取り組んでいききっかけ作りを継続し、地域のセーフティネットの強化のためにハピサポフェスタを実施した。

(2) 防災・減災、防犯事業＜3年目＞

地区消防団、市民防災隊が地区の防災・減災活動を担っているが、その後継者育成が大きな課題である。防災組織連絡協議会が実施する事業や組織の見直しの動きとも連携をとりつつ、防災・減災活動に関わるコアメンバーとなる人材の育成に繋がるような事業を行った。

①滝川町に完成した滝川公園（防災公園）の完成を契機とし、災害時の要支援者対応の関わる多様な主体が参加する形で防災フェスタ（9月）を実施した。各自治会から会場までの避難経路の確認とともに防災公園の機能を備えて整備された滝川公園でのマンホールトイレの設置、災害時テントの展示などを実施するとともに隣接地区の自治会長の参加も得て意見交換等を行った。

②地区防災プログラム（11月）として「防災・減災を楽しく学ぼう」を実施。橋北小学校の児童とともに身近な題材で「日常の中に非日常を取り込む」という視点から地区の防災関係者、PTAのメンバーがスタッフになり小学校の児童とともに地区の防災意識の向上に努めた。

(3) 心ツナガル地域事業＜新規＞

プロのJAZZバンドの演奏を身近に体験するという機会を設定するだけでなく、地域の多様な世代で構成する「温」合唱団と合同演奏をするなど、多様な世代が交流できるような仕掛けを行うことで相互理解を進める取り組みを行った。

5. 経費

金額単位：円

事業項目(種目)	支出科目	支出金額	内訳
セーフティネット強化事業	委託料	276,376	ハピサポフェスタ 220,000
			臨床美術講座 56,376
防災・減災事業	印刷製本費	57,456	防災展示パネル
	食糧費	4,320	飲料代
	賄材料費	7,560	カンパン
	委託料	380,000	防災・減災イベント実施委託
	消耗品	4,356	ブルーシート
心つながる地域事業	消耗品	19,126	剪定ばさみ等購入
	委託料	244,000	橋北 BIG BAND 実施委託
合 計		993,194	

6. 目標及び実績

指標	目標	実績
セーフティネット強化事業 実行委員数	10人	8人
防災プログラム（11月） 実行委員会参加者数累計	50人	41人
心ツナガル地域事業 コアメンバー数	5人	5人

7. 成果

地域の課題ではあるが多様な世代が参画、交流する機会を提供することができた。

8. 今後の展開

地域の人口は減少しているが若い世代は増えていることなど地域を取り巻く環境が変わっている。

地域の課題は長期的なものであるなか“地域に誇りを持てる”“住み続けたいくなるまち”となれるような人材育成につながるような取り組みを継続する。

(1) セーフティネット強化事業と地域連携事業



(2) 防災・減災、防犯事業＜3年目＞

①防災フェスタ in 滝川公園（9月）



②「防災・減災を楽しく学ぼう」



(3) 心ツナガル地域事業＜新規＞

○プロのJ A Zバンド演奏と地域合唱団「温」のコラボ



令和元年度 地域活動費(館長権限予算) 実績報告書

事業名 美しき中部パワーアップ推進事業

地区名 中部

1. 望まれる地域の姿

中部地区の所有する歴史的・文化的資源や観光資源などの魅力をさらに高揚し、地区の一体感を醸成することができる。

2. 地域の現状

- ・ 5 地区にそれぞれ伝統等特色がある。
- ・ 住宅、商店街、工場等が混在している。
- ・ 高齢化の進展が著しい。
- ・ 各種団体に後継者不足が見受けられる。

3. 課題

東海道、鯨船、四日市港など中部地区には歴史的・文化的資源や観光資源が多数存在するものの、住民の意識はさほど高くないと思われる。地区の魅力を認識し、一体感を醸成していく必要がある。

4. 実施内容

1. 中部地区ふるさとマップの更新【継続3年目】

中部地区市民センター内に設置されている中部地区ふるさとマップの整備として、色あせたマップをデジタルデータマップに更新し、電光表示板の電球 LED 化や案内箇所数増加等充実を図った。

2. 案内看板・幟等の作成・設置

地域の協力を得て、歴史的・文化的・観光資源である菅公、岩戸山、富士の巻狩り、南浜田舞獅子の案内看板を PR ポイントに設置し、東海道沿いに設置している幟を追加した。

3. 地域案内講演会<新型コロナウイルス感染症拡大防止のため開催中止>の会場整備とともに、中部地区の一体感の醸成を目指して、イベント用スタッフユニフォームを準備した。

5. 経費

金額単位:円

事業項目(種目)	支出科目	支出金額	内訳
ふるさとマップ更新業務	委託料	163,080	マップデータ出力、UV 加工
マップ用電光表示板更新	委託料	496,800	
案内看板の作成・設置	委託料	117,100	官公、富士の巻狩り、岩戸山
幟等の購入	需用費	119,171	幟 95、ポール 10、ウエイト 10
スタッフユニフォーム	需用費	94,495	イベントベスト 50
地域案内講演会備品	備品購入費	158,760	スタッキングチェア 30
地域案内講演会準備	需用費	27,280	ホワイトボード、チラシ
合 計		1,176,686	

6. 目標及び実績

指標	目標	実績(見込)
マップ発表会参加者数	50名	0名(開催中止のため)
地域案内講演会参加者数	30名	0名(開催中止のため)

7. 成果

8. 今後の展開

地区の魅力を地域住民や来訪者に認識してもらえるよう、老朽化していた地区のふるさとマップを更新し、歴史的・文化的資源の案内看板を4か所に設置した。中部地区としてのイベント用ユニフォームは、概ね好評で、共同・同和・中央・港・浜田の5地区の一体感醸成に寄与した。

中部地区においては、5つの地区（共同・同和・中央・港・浜田）において年度当初から12月中旬頃まで、各種団体の総会、ふれあい行事、敬老行事、防災避難訓練等の大きなイベント等があるため、特に住民参加を募るような事業の着手は中々困難である。



中部地区ふるさとマップ



菅公山車看板



岩戸山山車看板



富士の巻狩り看板



南浜田舞獅子看板



イベント用スタッフユニフォーム



東海道幟



ホワイトボード、スタッキングチェア

令和元年度 地域活動費(館長権限予算) 実績報告書

事業名 地域コミュニティ活性化促進事業

地区名 楠

1. 望まれる地域の姿

- ・生まれて良かったな、住んで良かったなと実感できる安心、安全かつ魅力、誇りを持てる地域
- ・自助、共助、公助を、それぞれの家庭や地域の中でお互いに理解し、支えあい助けあうことができるコミュニティ豊かな絆の強い地域
- ・地域のことは地域住民が決定し、個性的で豊かな地域社会を築くことができる地域

2. 地域の現状

- ・年々高齢化が進んでおり、また、高齢者だけの世帯も増加している。
- ・地区内の少子化が急速に進行している。
- ・四日市唯一の自然海岸を含め、自然豊かで古くからの産業も息づいている。
- ・まちづくりを支える多様な団体が活動している

3. 課題

- ・鈴鹿川に挟まれた楠地区は洪水の危険と隣り合わせである。
- ・夜間、休日に避難所の開設に多くの時間を要する場合がある。
- ・まちづくりの基盤の一つである自治会を含めた地縁団体への参加や加入や人と人との交流が年々減少するとともに、担い手の高齢化が進んでおり、担い手の若返りが急務である。
- ・人と人との交流や団体間の繋がりも年々希薄になってきている。
- ・多くの団体が地区住民のために活動しているが、住民に浸透していないことからか、不安や課題が生じて、どこにも相談できず一人抱え込んでしまう状態が見受けられる。
- ・2つあった幼稚園も1園休園するなど、楠地区内での子育てに魅力が減少している。

4. 実施内容

1 自治会加入等市民協働促進事業

自治会加入を促進するため自らメリット等を啓発するためのイベント等を開催してもらう。

また、自治会を含む地縁団体による市民協働を促進するため、各々の紹介チラシを自ら作成してもらうことで、団体の役割や位置づけ等を自ら再確認するとともに、地区住民に周知した。

(1) 地引網体験の実施【3年目】

連合自治会を中心に地縁団体が協力し、地引網体験を開催した。

なお、地引網の募集案内に際し、自治会自ら自治会紹介チラシを作成してもらいの回覧等により、自治会の加入促進、協力依頼を行った。

(2) 自治会による避難者受け入れ態勢の構築【2年目】

夜間・休日等における火災時等などの緊急時において、自治会集会所等での避難者の受け入れをできる体制を構築した。

(3) 自治会情報等の発信【2年目】

地区市民センターロビーを活用して自治会を含めた地縁団体の紹介パネルを掲示するとともに、『こども広報くす』を発行し、団体の紹介等を発信した。

2 『子育てするなら四日市(楠)』『教育するなら四日市(楠)』促進事業

楠地区で子育てを行っている保護者等の不安の解消と教育環境の充実を図った。

(1) 子育て支援講座の実施【新規】

ママ友サークルの創設を促すため、保護者が集まる講座を開講した。

(2) 楠っこフェスティバル【2年目】

地域主体による子育て支援イベント『楠っこフェスティバル』を開催した。

(3) 子育て記念パネル等の設置及び子育て施設の案内チラシの作成【新規】

こどもの成長記録撮影ができる環境整備を行うとともに、出生届提出者等に対して配布する地域の子育て施設の案内チラシを作成した。

5. 経費

金額単位:円			
事業項目(種目)	支出科目	支出金額	内訳
地引網体験	委託料	300,000 円	楠地区連合自治会
避難者受け入れ態勢構築	消耗品	70,400 円	毛布
自治会情報等発信	消耗品	82,805 円	インクトナーなど
子育て支援講座	委託料	105,000 円	Ms. チアーズ
楠っこフェスティバル	委託料	250,000 円	楠地区民生委員児童委員協議会
子育て記念パネル 及び子育て施設の案内チラシ	委託料 消耗品	200,000 円 31,121 円	Ms. チアーズ マット、フォトプリンターなど
合 計		1,039,306 円	

6. 目標及び実績

指 標	目 標	実 績 (見込)
1. 市民協働による避難所開設運営事業	緊急避難所指定数(火事)	10 か所
	緊急避難所指定数(地震)	10 か所
2. 自治会加入等促進事業	地引網参加者数	100 人
	紹介パネルの作成数	7 個
	こども広報くすの発行数	4 回
3. 『子育てするなら四日市(楠)』『教育するなら四日市(楠)』促進事業	子育て記念パネルの利用者	10 人 (10 人)
	ママ友サークルの創設数	1 団体
	フェスティバルの参加者数	100 人
	学習スペースの利用者数	20 人
4. 楠地区の魅力等発信事業	デジタルサイネージの配信数	5 回

7. 成果

1. 市民協働による避難所開設運営事業
火災等の緊急時に自治会集会所等で避難者を受け入れてもらうことが可能になった。
2. 自治会加入等促進事業
自治会自らが加入促進をする意識付けができた。また、自治会の必要性を住民に周知できた。
3. 『子育てするなら四日市(楠)』『教育するなら四日市(楠)』促進事業
子育てに対する不安が少し解消された。
また、自治会等に関心の無かった子育て世代の方に地縁団体の必要性を理解してもらえた。
4. 楠地区の魅力等発信事業
既存イベントについて基本的な枠組みを整備できた。

8. 今後の展開

1. 市民協働による避難所開設運営事業
緊急時にセンターで避難者の受け入れが間に合わない時、集会所等で受け入れてもらう。
2. 自治会加入等促進事業
各団体が自ら加入促進等について検討してもらう。なお、地引網については隔年での開催を検討中。
3. 『子育てするなら四日市(楠)』『教育するなら四日市(楠)』促進事業
今年度設立したママ友サークルを中心に、気軽に保護者が集える環境を地域と一緒に検討する。
4. 楠地区の魅力等発信事業
地域のイベント等についてデジタルサイネージやホームページ等を利用して積極的に発信していってもらう。

地引網体験



楠っこフェスティバル



子育て支援講座『はぴぱれ』



子育て記念パネル

